ホイル型運搬車

取 扱 説 明 書

ロードガロ

SL620B

ご使用の前に必ずお読み下さい。

atex

はじめに

●このたびは、㈱アテックス　ホイル型運搬車をお買上げいただき、まことにありがとうございます。

●このホイル型運搬車は、小型特殊自動車です。この車の所有者となった方は、小型特殊自動車の登録申請を行い、ナンバープレートの交付を受けてください。（６ページ参照）

●この取扱説明書は、ホイル型運搬車を使用する際にぜひ守っていただきたい安全作業に関する基本的事項、また、ホイル型運搬車を最適な状態で使っていただくための正しい運転・点検・整備に関する技術的事項を中心に構成されています。

●ホイル型運搬車を初めて運転される時はもちろん、日ごろの運転・取り扱いの前にも取扱説明書を熟読され、十分理解の上、安全・確実な作業を心がけてください。

●この取扱説明書は、いつでも取り出して読むことができるよう大切に保管してください。

●ホイル型運搬車を貸与、または譲渡される場合は、相手の方に取扱説明書の内容を十分理解していただき、この取扱説明書をホイル型運搬車に添付してお渡しください。

●この取扱説明書を紛失、または損傷された場合は、速やかにお買上げいただいた販売店にご注文ください。

●なお、品質・性能向上あるいは、安全性の向上のため使用部品の変更を行うことがあります。その際には、本書の内容及びイラストなどの一部が本ホイル型運搬車と一致しないことがありますので、ご了承ください。

●もし、おわかりにならない点がございましたら、ご遠慮なくお買上げいただいた販売店にご相談ください。

はじめに

●取扱説明書の中の ⚠重要 表示は、次のような安全上、取扱上の重要なことを示しています。よくお読みいただき、必ず守ってください。

表　示	重　　要　　度
⚠危険	その警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負うことになるものを示しています。
⚠警告	その警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う危険性があるものを示しています。
⚠注意	その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示しています。
重要	商品の性能を発揮させるための注意事項を説明しています。よく読んで製品の性能を最大限発揮してご使用ください。

●この取扱説明書では、同じシリーズの各型式・区分の運搬車について併記してあります。お買上げ頂いた運搬車の型式・区分名を機体に貼付してある銘板で確認され、該当する項目をよくお読みください。

型　　式	搭　載　エ　ン　ジ　ン　仕　様	荷台タイプ	キャビンの有無
ＳＬ６２０B	種　　類;空冷4サイクル傾斜型OHVガソリンエンジン 型　　式;カワサキＦＥ２９０Ｇ 最大出力;９．４ps（６．９kw） 排気量　;２８６cc	油圧ダンプ	無
ＳＬ６２０CB			有
ＳＬ６２０ＪＢ	種　　類;水冷２気筒４サイクルディーゼルエンジン 型　　式;クボタＺ４８２－ＥＢ 最大出力;１１．１ps（８．２kw） 排気量　;４７９cc		無
ＳＬ６２０ＪＣＢ			有

目　次

重要安全ポイントについて ---- 2
安全表示ラベルの注意 ---- 3～ 4

小型特殊自動車としての取扱い ---- 5～ 7

安全のポイント ---- 8

安全な作業をするために ---- 8～22

保証とサービス ---- 23～24

各部の名称とはたらき ---- 25

各部の名称 ---- 25
スイッチの名称とはたらき ---- 26～30
操作レバー及びペダルの名称とはたらき ---- 31～35

運転前の準備 ---- 36

運転前の点検について ---- 36～37

運転のしかた ---- 38

運転操作の要領 ---- 38～44
積載要領 ---- 45～46
油圧操作 ---- 47～48
点検・整備 ---- 49～59
各部の調整 ---- 60～77

手入れと格納 ---- 78～79

不調時の対応のしかた ---- 80～85

農作業を安全におこなうために ---- 86

一般共通事項 ---- 86～88
移動機械共通事項 ---- 89～90

サービス資料 ---- 91

主要諸元 ---- 91～92
外観図 ---- 93～94
主な消耗部品 ---- 95
注文部品の紹介 ---- 96

索引

重要安全ポイントについて

1．運行前には、
必ず始動点検を行ない、特に重要な保安部品（ブレーキ等）は、
確実に整備します。

2．農道を走行するときは、
スピードを落とし路肩に注意します。

3．圃場へ出入りするときは、
スピードを落とし畔に直角に走行します。

4．機械の清掃・点検及び調整をするときは、
必ずエンジンを止め、荷台降下防止をします。

5．補助者と共同作業を行なうときは、
合図をし、安全を確認します。

6．ダンプ作業を行なうときは、
周囲の安全を確認します。

7．荷物を積むときは、
積載重量を守りバランスよく、また荷動きしないよう
しっかりとロープ等で固定します。

この機械をお使いになるときは復唱してください。

安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい重要安全ポイントは
上記の通りですが、これ以外にも本文の中で安全上是非守っていただきたい
事項を ⚠重要 を付して説明の都度取りあげております。
よくお読みいただくとともに、必ず守っていただくようお願い致します。

安全表示ラベルの注意

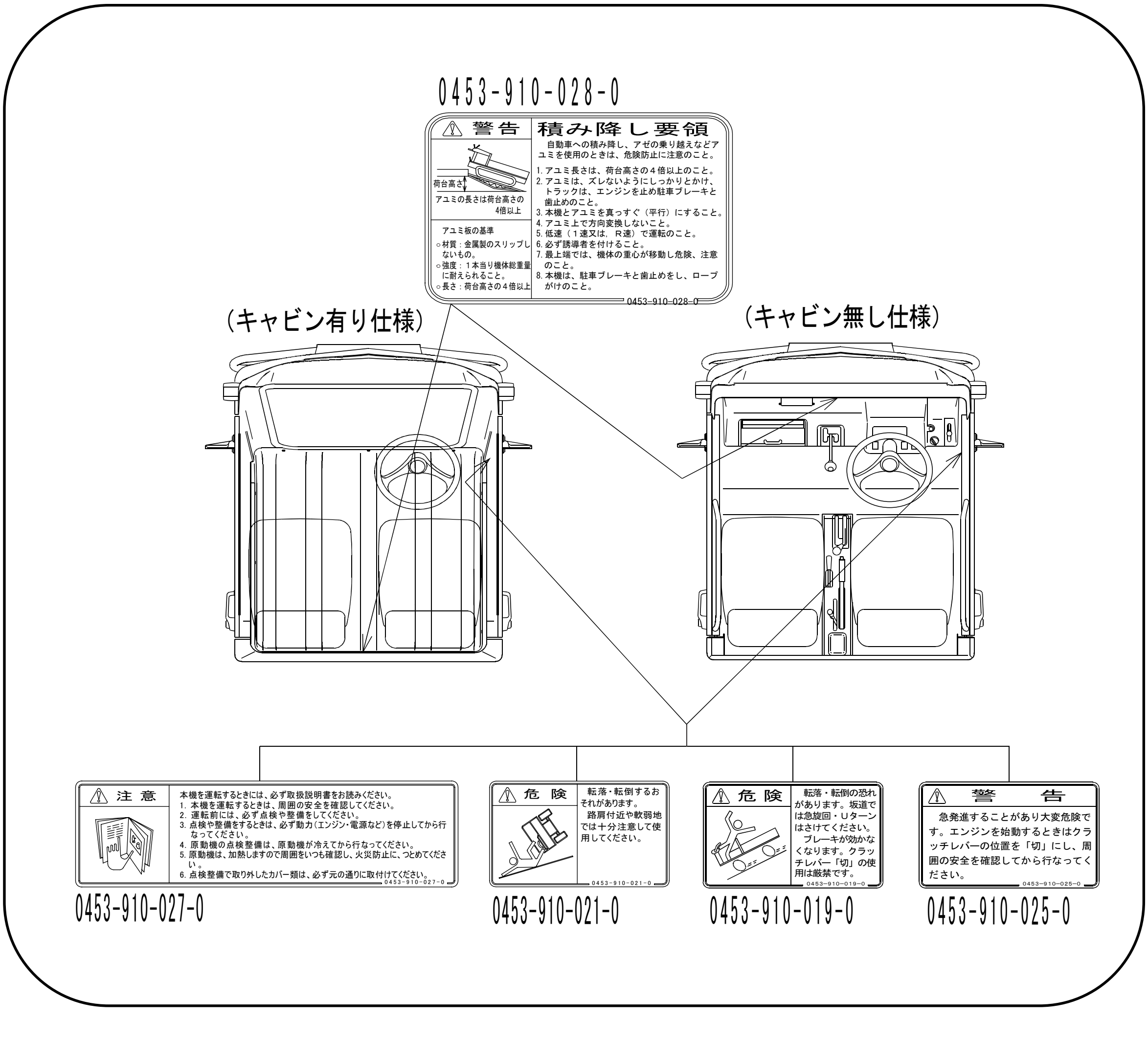
■本機には、安全に作業していただくため、安全表示ラベルが貼付してあります。必ずよく読み、これらの注意に従ってください。

■安全表示ラベルを破損・紛失したり、記載文字が読めなくなった場合は、新しいラベルに貼りかえてください。安全表示ラベルは、お買い上げいただいた販売店へ注文してください。

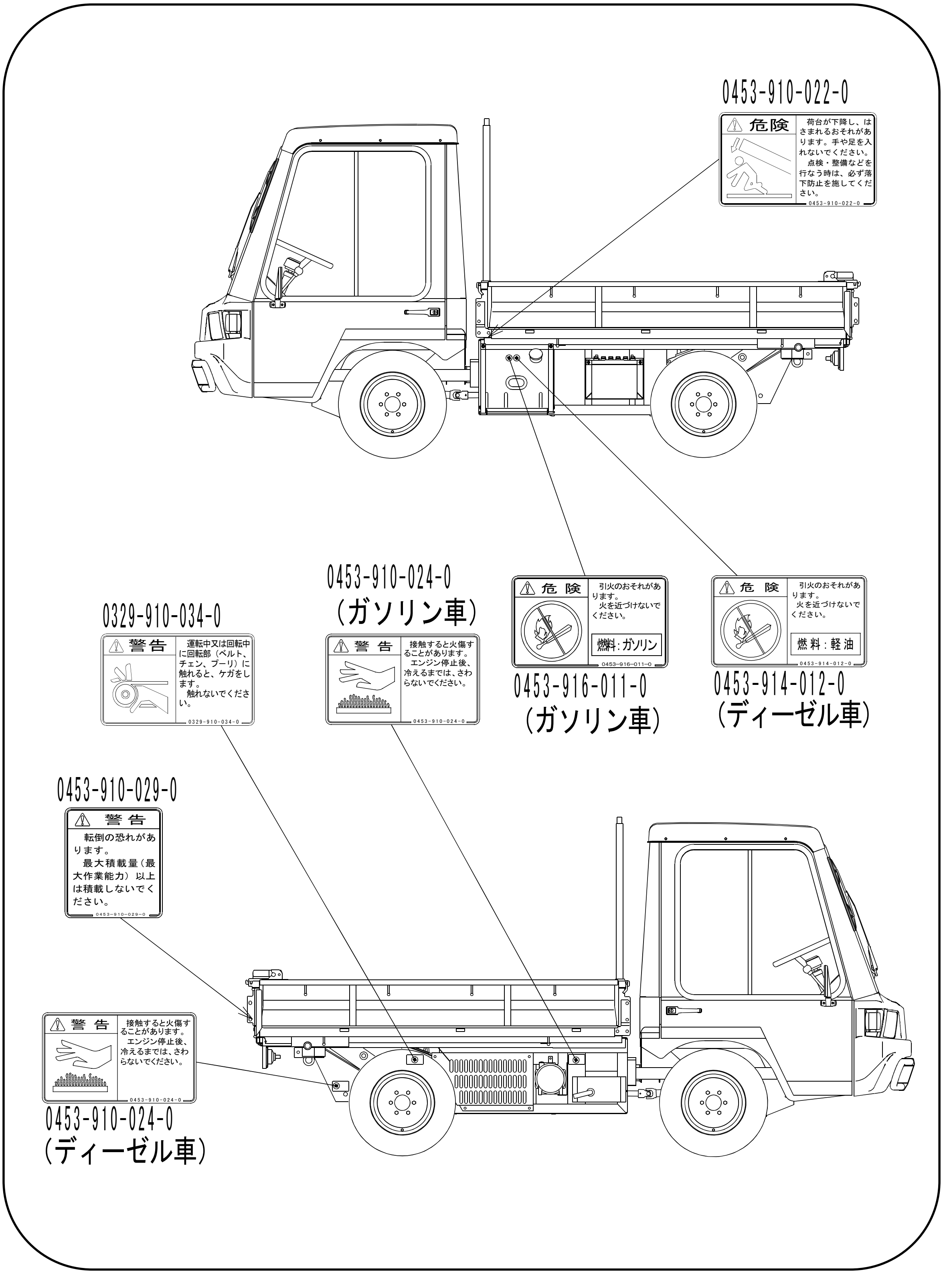
■汚れた場合は、きれいにふき取り、いつでも読めるようにしてください。

■安全表示ラベルが貼付してある部品を交換する場合は、同時に安全表示ラベルもお買い上げいただいた販売店へ注文してください。

安全表示ラベル貼付位置



安全表示ラベル貼付位置



小型特殊自動車としての取扱い

重要 ●この運搬車は小型特殊自動車（ホイール・キャリア）として、道路走行車両の型式認定を受けております。ご使用の際は以下の点を遵守してください。

■小型特殊自動車とは

小型特殊自動車は、法で定められた右記の条件を満足していなければなりません。次のようなことは絶対にしないでください。

①運搬車各部構造の改造
②型式の異なるエンジンの搭載
③届出タイヤ以外のタイヤの装着
④各封印部分の開封

車体の大きさ	全長	４．７ｍ以下
	全幅	１．７ｍ以下
	全高	２．８ｍ以下
最高速度		15km／時未満
原動機の総排気		1500cc 以下

これらの改造変更は「不法改造」に該当し、違法行為となり一切の保証はいたしませんのでご注意ください。

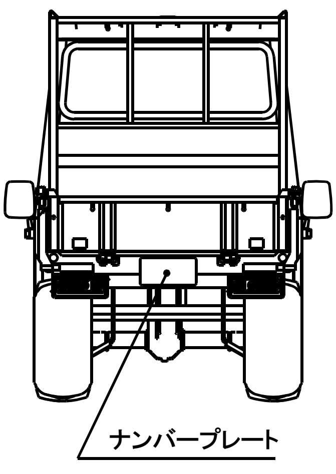
■市町村役場への届出とナンバープレートの取付

① この運搬車の所有者となられた方は、市町村条例の定めにより市町村役場に届け出て、ナンバープレートの交付を受けなければなりません。（６ページ参照）

② 届出には小型特殊自動車取得証明書（「お買いあげ先」で準備いたします。）と軽自動車税および印鑑を添えて提出してください。
なお、届出の手続きは、市町村により多少異なることがありますので、詳細は「お買いあげ先」にご相談ください。

③ 交付されたナンバープレートは、運搬車後部のナンバープレート取付場所に確実に取り付けてください。

ナンバープレート取付位置



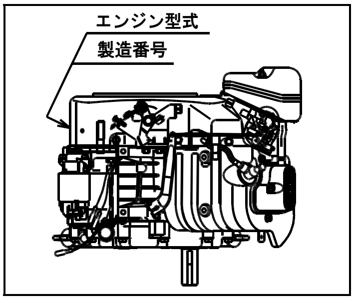
■小型特殊自動車登録申請の手引き

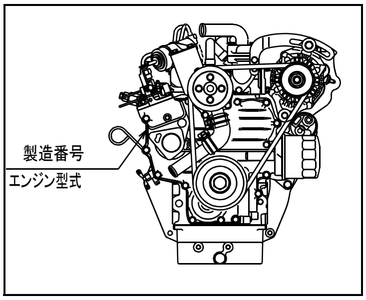
この車の所有者となった方は、市町村役場において小型特殊自動車の登録申請を行い、ナンバープレートの交付を受けてください。
（詳細な手続きは市町村役場窓口でお尋ねください。）

＜市町村役場の登録申請書記載事項＞

機種型式 / 項目	ＳＬ６２０Ｂ（ＣＢ）	ＳＬ６２０ＪＢ（ＪＣＢ）
搭載エンジン	カワサキＦＥ２９０Ｇ	クボタＺ４８２－ＥＢ
種別用途	小型特殊自動車	
車名	アテックスＳＬ６４	アテックスＳＬ６６
型式	アテックスＳＬ６４	アテックスＳＬ６６
年式	年式は購入された年を記入してください。	
原動機番号	エンジンの打刻を見て記入してください。	
原動機総排気量	２８６cc	４７９cc
車台番号	車台番号は燃料タンク右側に打刻しています。	
型式認定番号	特２０２６	特２０２８
形状	ホイール・キャリア	

原動機番号





車台番号

■運転免許証の携帯

このホイル型運搬車を運転し、公道を走行する場合は、小型特殊自動車を運転できる運転免許が必要です。公道を運転中は、必ず運転免許証を携帯してください。

■保険について

小型特殊自動車は、自動車損害賠償責任保険に必ず加入してください。また、万一の交通事故補償に備えて、任意保険に加入しておかれることをお勧めします。

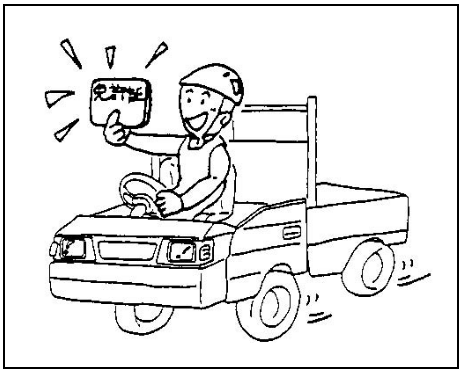
安全のポイント

安全な作業をするために

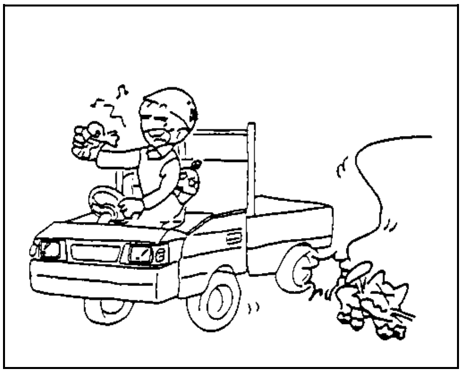
本章では、機械を効率よく安全にお使いいただくために、必ず守っていただきたい事項を説明しております。十分に熟読されて、安全な作業を行ってください。

■運転者の条件

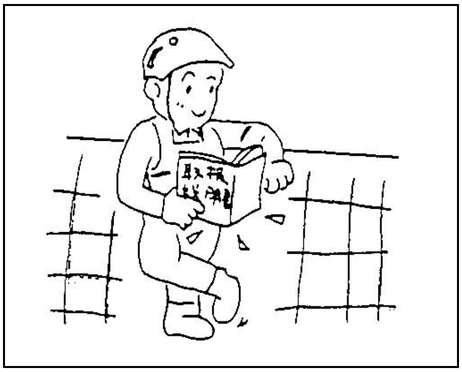
(1) このホイル型運搬車を運転し、公道を走行する場合は、小型特殊自動車を運転できる運転免許が必要です。公道を運転中は、必ず運転免許証を携帯してください。



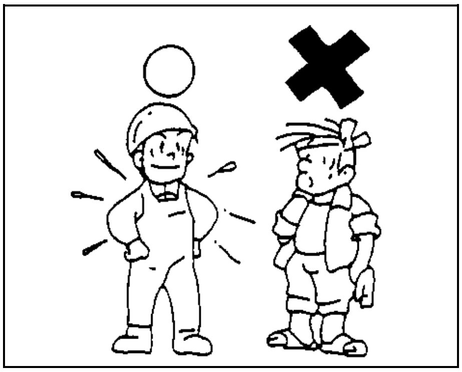
(2) 飲酒時や過労ぎみの時、運転・作業をしてはいけません。このようなとき運転を行うと、誤操作などで思わぬ事故を引き起こします。運転・作業をするときは、必ず心身とも健康な状態で行ってください。



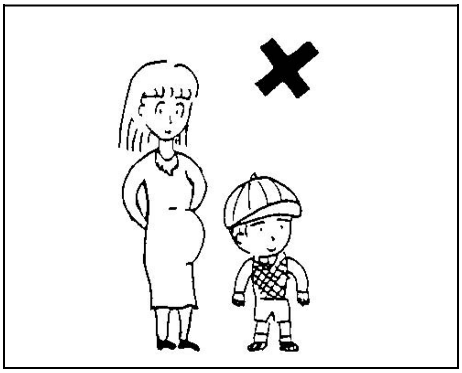
(3)　この「取扱説明書」をよく読むことからはじめてください。これが安全作業の第一歩です。



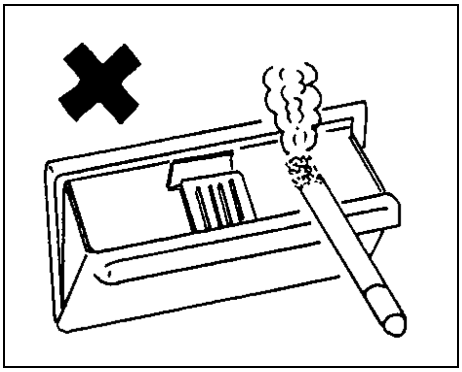
(4)　服装は、作業に適したものを着てください。服装が悪いと、衣服が操作レバーなどに引っ掛かったり、靴がスリップしたりして大変危険です。



(5)　妊娠している人、１８歳未満の人、免許証を持っていない人は、運転をしないでください。

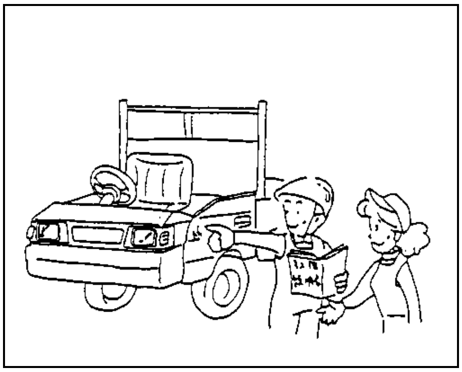


(6)　タバコやマッチなどの火は確実に消し、灰皿を必ず閉めてください。



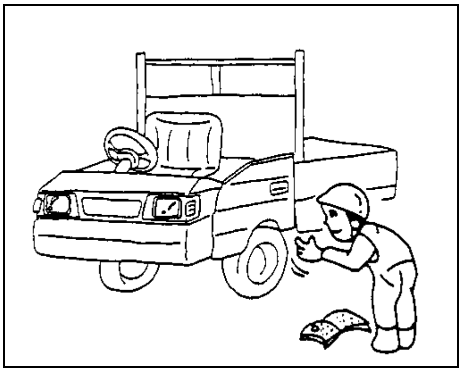
■人に機械を貸す時は

(1)　機械を貸す時は、運転免許証の必要性、取扱いの方法をよく説明し、使用前に取扱説明書を熟読するよう指導してください。借りた人が、機械の運転に不慣れなため、思わぬ事故を引き起こすことがあります。

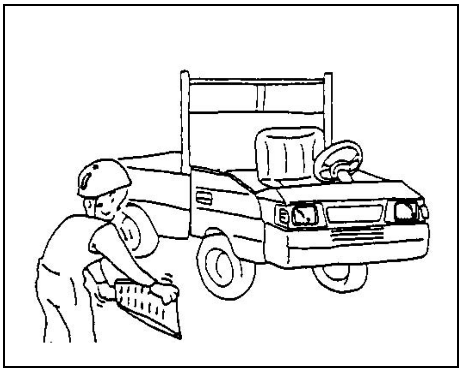


■運転を開始する前に

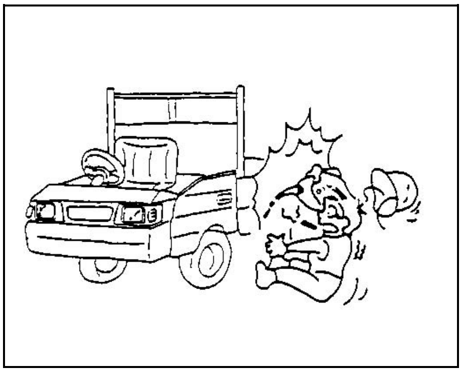
(1)　無理、無駄のないゆとりある運転計画をたてましょう。無理な運転計画は、あせりなどから思わぬ事故を引き起こすことがあります。
(2)　運転する前に、この取扱説明書を参考に必要な点検を必ず行ってください。点検を怠ると、ブレーキの効きが悪かったり、クラッチが切れなかったりして、走行中や作業中の思わぬ事故につながります。



(3)　安全カバー類が外されたままになっていないか確認しましょう。外されたままエンジンをかけたり、運転作業を行うと危険な部分が露出して大変危険です。

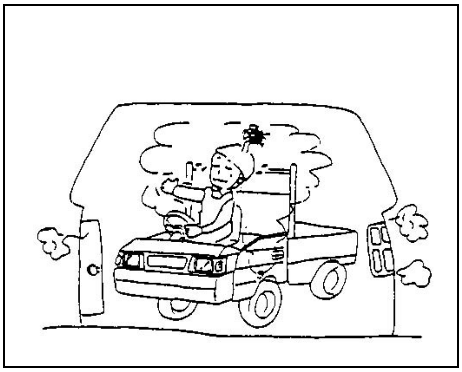


(4)　燃料の補給や潤滑油の給油・交換をするときは、くわえタバコなどの火気は厳禁です。守らなかった場合、火災の原因になります。



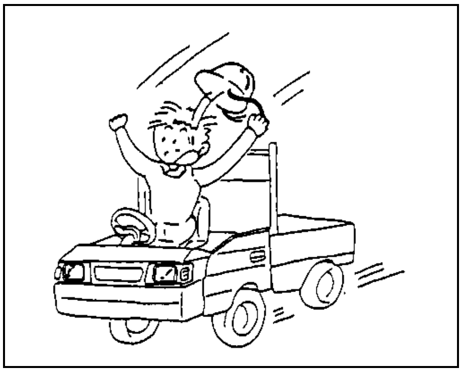
■エンジンの始動と発進

(1)　室内でエンジンを始動するときは、窓や戸を開けて、換気を十分に行ってください。換気が悪いと、排気ガス中毒を起こし大変危険です。



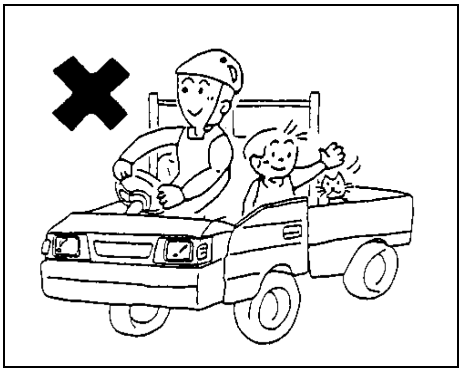
(2)　エンジンを始動するときは、必ず座席に座ってフットクラッチペダル及び、フットブレーキペダルを踏み込んで行ってください。

また、万一に備えて変速レバーやその他レバー類の位置と、周囲の安全を確認してから行ってください。



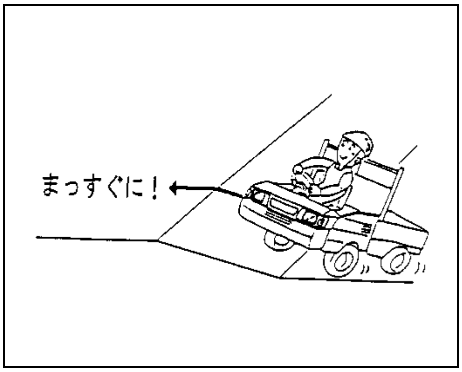
■走行するときは

(1)　本機は２人乗りです。いかなる場合も荷台には絶対に人、動物等を乗せないでください。急旋回、重心の移動等により大変危険です。



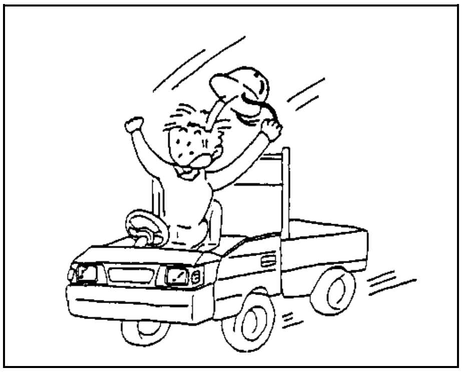
(2)　凸凹の激しい道路での高速走行はしないでください。路面状態、積載状態に応じた安全な速度で走行してください。これを怠ると衝突・転倒・転落事故を引き起こす恐れがあります。

(3)　傾斜地は、まっすぐに昇り降りしてください。斜面をよこぎると転倒の恐れがあり大変危険です。



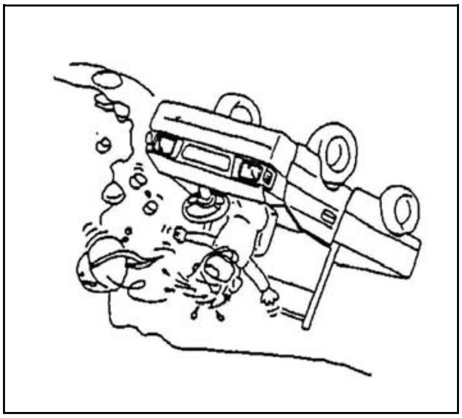
(4)　坂道を下るときは、変速レバーを１速にし、エンジンブレーキを効かせ、走行クラッチレバーを切ったり、変速レバーを中立位置にしないでください。また、フットブレーキの多用は、ブレーキを傷めるとともに、スリップやブレーキの効きが悪くなる原因となり大変危険です。

急な下り坂では４ＷＤを併用してください。

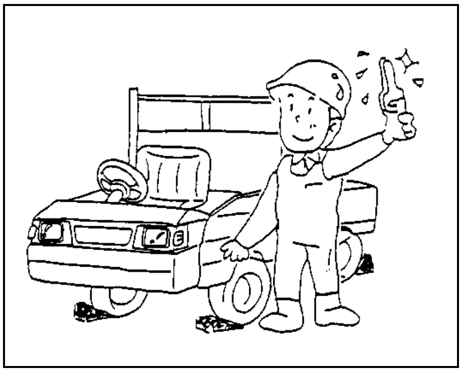


(5)　軟弱地盤では低速で走行し、急加速・急旋回および停車はしないでください。

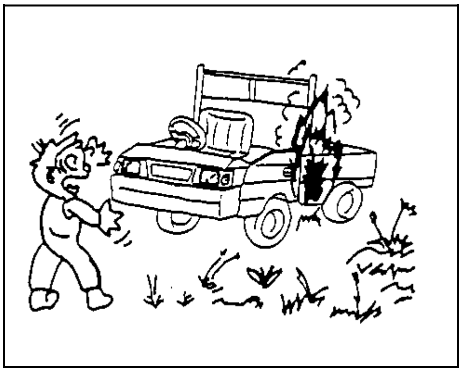
(6)　側溝のある農道や両側が傾斜している道を走行するときは、速度を落として十分に注意して走行してください。路肩が崩れて転倒したりして大変危険です。



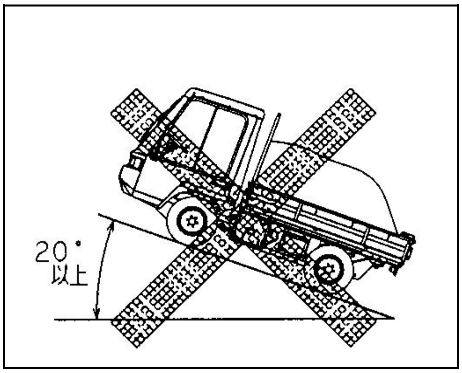
(7)　本機から離れるときは、エンジンを停止し、キースイッチからキーを抜き取り、駐車ブレーキをかけ、ギヤを１速に入れ車止めをしてください。また、駐車するところは、広い地面の硬い安全な場所を選んでください。機体が自然に動き出したりして大変危険です。



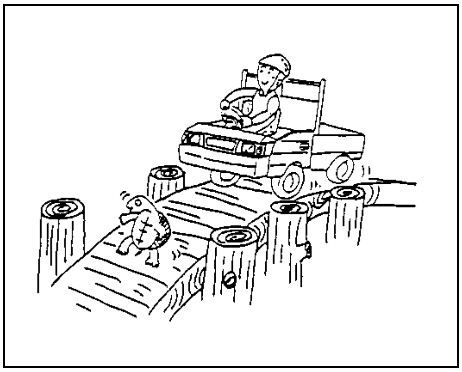
(8)　本機を草やワラ等可燃物の上に止めて空吹かしをしたり、エンジンを高回転にしたりすると排気管の熱や排気ガスにより、ワラなどに着火し火災の原因となる恐れがあります。



(9)　５°～２０°の傾斜地では、積載量を３００kg以下にして走行してください。２０°を超える急傾斜地では走行しないでください。

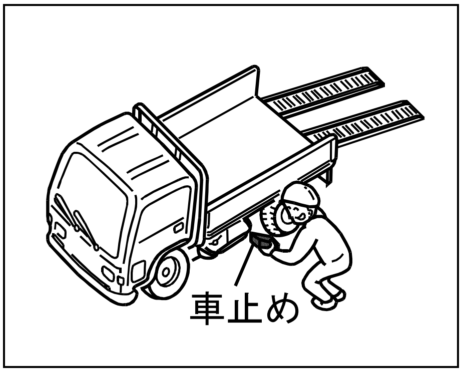


(10) 木橋等重量規制のある所を走行する場合は、重量規制を守り、ゆっくりと静かに走行してください。

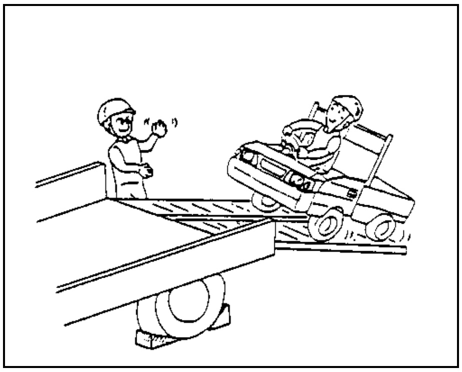


■トラックへの積み込み・積み降ろし

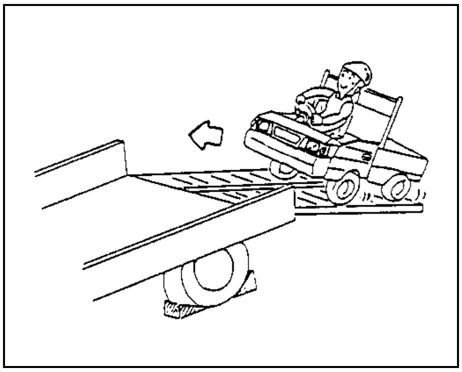
(1) 積み込むトラックは、エンジンを止めて、変速を「1速」または「R速」位置にして、駐車ブレーキをかけ車止めをして行ってください。これを怠ると、積み込みや積み降ろしの時、トラックが動いて転落事故を引き起こす恐れがあり大変危険です。



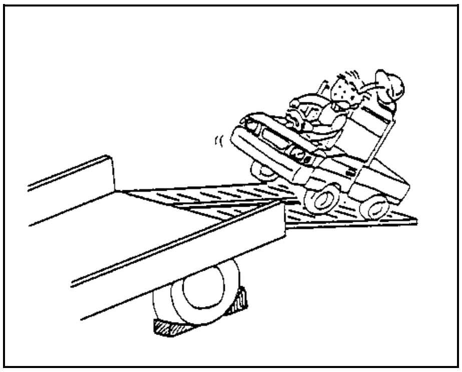
(2) 誘導者を付けて、周囲の安全を十分確認して行ってください。また、機械の直前や直後には絶対に立たないでください。傷害事故の原因となり大変危険です。



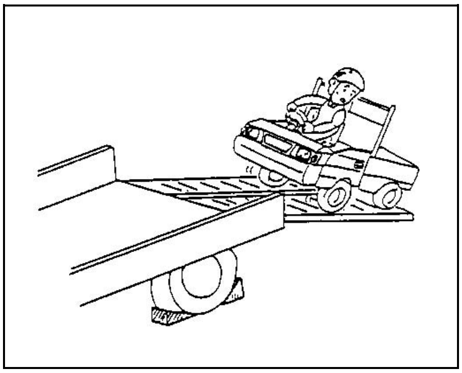
(3) 積み込み・積み降ろしは、強度・幅・長さの十分あるスリップしないアユミ板を使用し、直進性を見定めて、積み込みは「前進」、 積み降ろしは「後進」でゆっくりと行ってください。これを怠ると、転落事故の原因となり大変危険です。
（アユミ板の長さはトラックの荷台の高さの４倍以上のものを使用してください。）



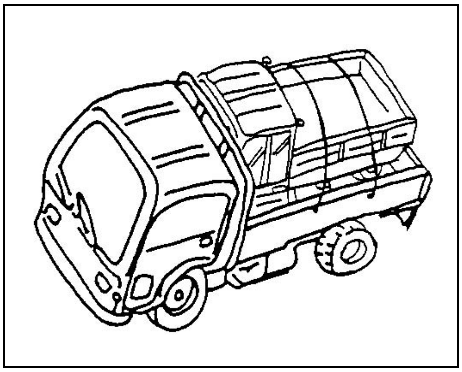
(4) 積み込み・積み降ろし中は、フットクラッチペダルを踏み込んだり、走行クラッチレバーを「切」にしたり、フットブレーキペダルを踏み込んだりしてはいけません。ハンドル操作を誤ったりして、転落事故の原因となり大変危険です。



(5) 万一、途中でエンストした場合は、すぐにフットブレーキペダルを踏み込み、その後徐々にフットブレーキペダルを緩め、いったん道路まで降ろし、改めてエンジンを始動してから行ってください。

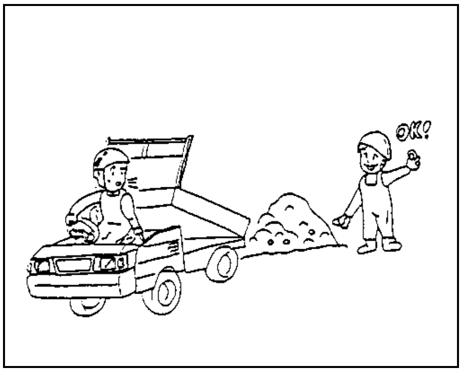


(6)　トラック等で運搬するときは、本機の駐車ブレーキをかけ車止めをし、必ずロープ等でトラックの荷台に固定してください。また、運搬中は不必要な急発進・急旋回・急ハンドルをしてはいけません。機械が移動して大変危険です。

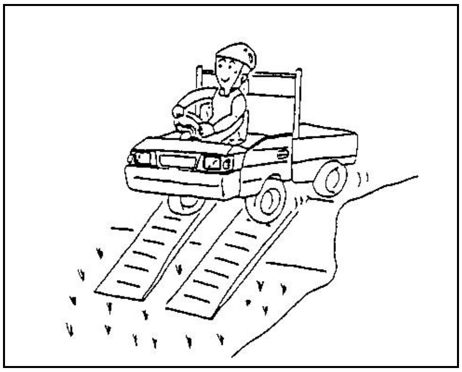


■作業中は

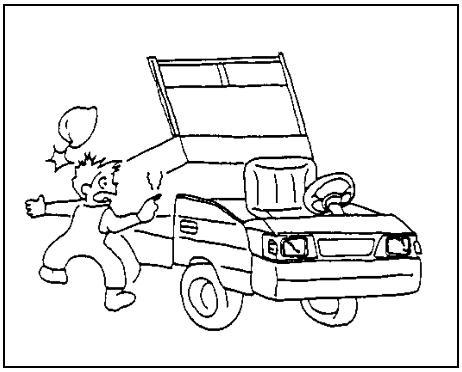
(1)　ダンプ作業など作業を開始するときは、周囲の安全を確認し、特に補助者とともに作業するときは、ホーン等で合図してから行ってください。怠ると、傷害事故の原因となり大変危険です。



(2)　畦の高さが高いところでの圃場の出入りでは、必ずアユミ板を使用してください。使用しなかった場合、衝撃で機械を破損させたり、傷害事故の原因となり大変危険です。
（アユミ板の角度は１５°以下で使用してください。）

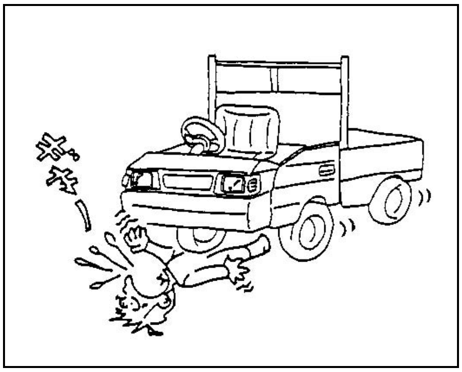


(3)　回転部・エンジン・マフラー等の過熱部・バッテリ端子等の通電部など危険な箇所には、手を触れないようにしてください。傷害事故の原因となり大変危険です。

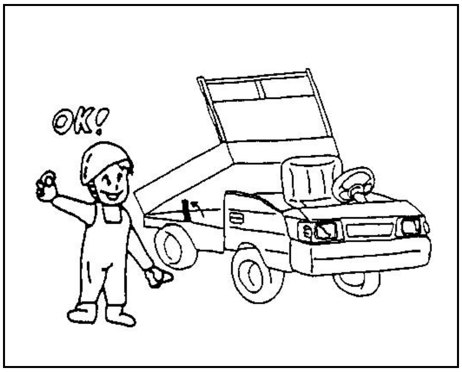


■点検整備

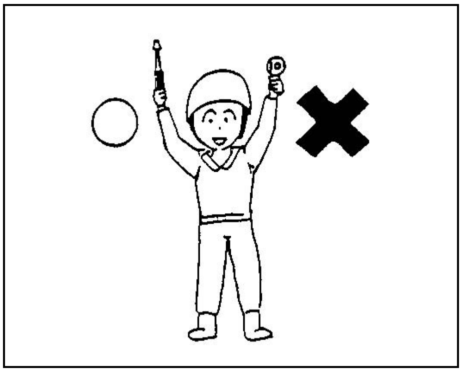
(1)　点検整備するときは、明るく平坦な広い場所で行ってください。これを怠ると、思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。



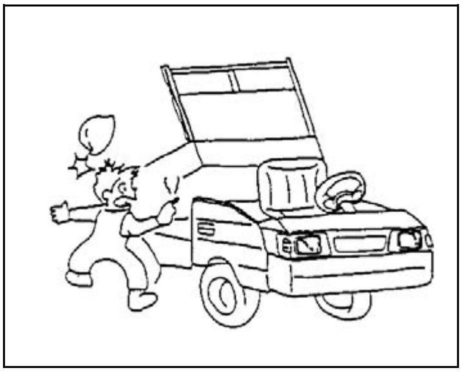
(2)　必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて行ってください。荷台をダンプしての点検整備の際は、荷台降下防止策を施してください。怠ると、挟まれたりして大変危険です。



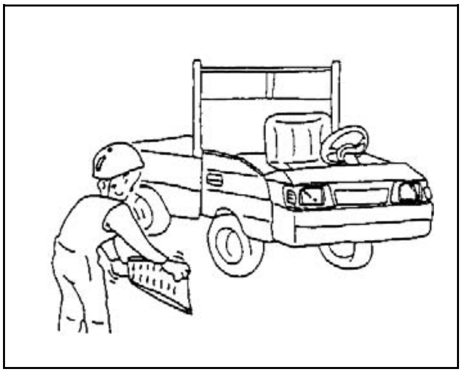
(3) 適正な工具を正しく使用して行ってください。間に合わせの工具で行うと、整備中の傷害事故や、整備不良による思わぬ事故を引き起こし大変危険です。



(4) エンジンを切ってすぐに、点検整備をしてはいけません。エンジン等の過熱部が、完全に冷えてから行ってください。怠ると火傷などの原因になります。

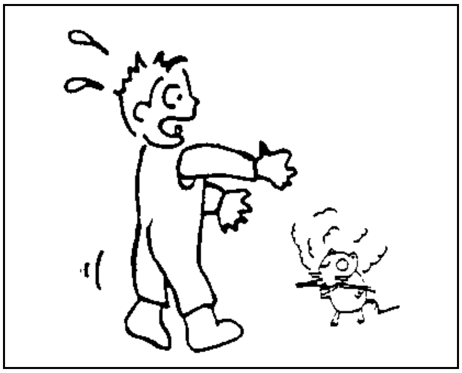


(5) 点検整備で取り外した安全カバー類は、必ず元の通りに取り付けてください。回転部や過熱部がむき出しになり、傷害事故の原因となり大変危険です。

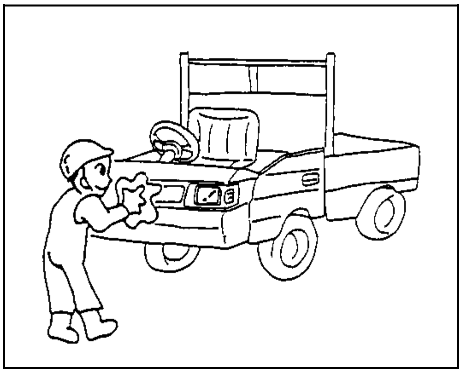


■保管・格納は

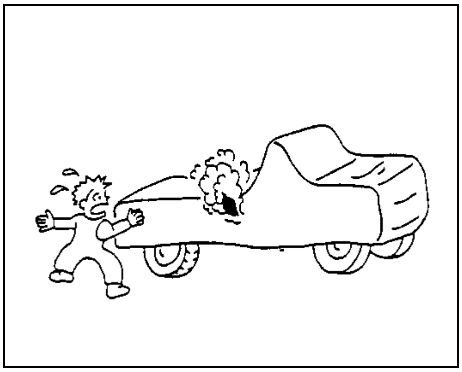
(1)　長期間格納する場合は、バッテリケーブルを外しておいてください。外しておかないと、ネズミ等がかじって、ケーブルがショートし、発火して火災の原因となり大変危険です。



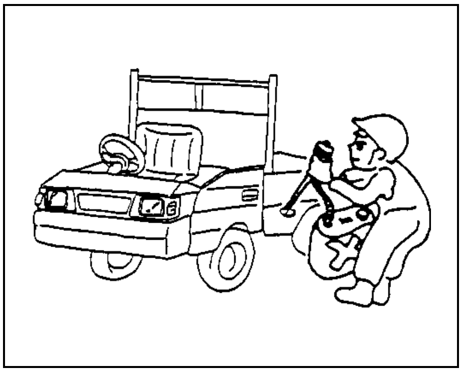
(2)　動力を停止し、機体に付着したドロやゴミ等をきれいに取り除いてください。特にマフラーなどエンジン周辺のゴミは火災の原因となります。必ず取り除いてください。



(3)　子供などが容易にさわれないようにカバーをするか、格納庫に入れて保管してください。カバー類をかける場合は、高温部が完全に冷えてから行ってください。熱いうちにカバー類をかけると火災の原因となります。

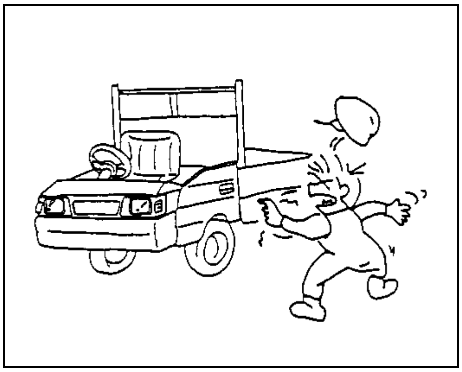


(4) 長期格納するときは、燃料タンクや気化器内の燃料を抜き取りましょう。燃料が変質するばかりでなく、引火などで火災の原因となり大変危険です。

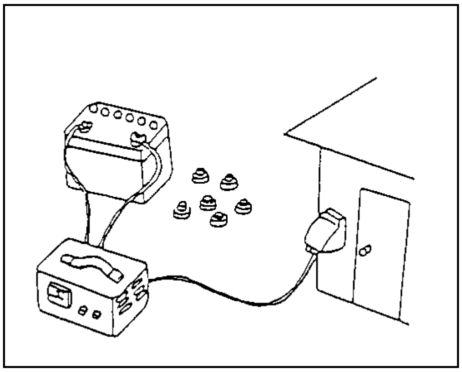


■電装品の取扱い

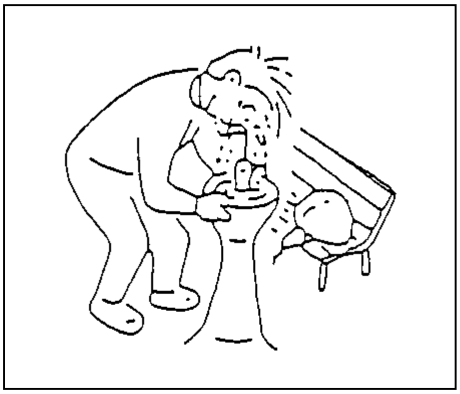
(1) 電気配線の点検および配線接続部の点検は必ずエンジンを停止し、キースイッチを切り、バッテリの㊀コードを外して行ってください。これを怠ると火花が飛んだり感電したり思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。



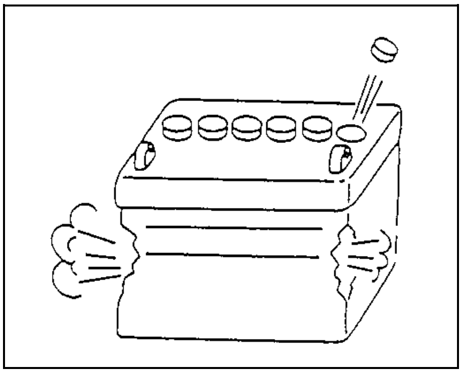
(2) バッテリを取扱う時は、ショートやスパークさせたり、タバコ等の火気を近づけないでください。また、充電は風通しのよいところでバッテリの補水キャップを外して行ってください。これを怠ると引火爆発することがあり大変危険です。



(3)　バッテリ液（電解液）は希硫酸で劇物です。体や服につけないようにしてください。失明や火傷をすることがあり大変危険です。もしついたときは、多量の水で洗ってください。なお、目に入った時は水洗い後、医師の治療を受けてください。



(4)　バッテリ液が下限以下になったまま使用を続けたり充電を行うと、容器内の各部位の劣化の進行が促進され、バッテリの寿命を縮めたり、破裂（爆発）の原因となる恐れがあり、大変危険です。



■ブースターケーブル使用時の注意事項

ブースターケーブル使用時には、危険のないように取扱ってください。

(1)　バッテリの補水キャップを取外してから接続してください。補水キャップが取外してあれば、万一引火しても爆発力は低下しますので、被害は少なくなります。

(2)　ブースターケーブル接続前には、エンジンを停止してください。これを怠ると、思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

(3)　ブースターケーブルは、できるだけ通電容量の大きいものを選んで使用してください。通電容量が小さすぎると、ブースターケーブルが熱をもったり、焼損したりして危険です。

保証とサービス

■新車の保証

この製品には、㈱アテックス保証書が添付されています。詳しくは、保証書をご覧ください。

■サービスネット

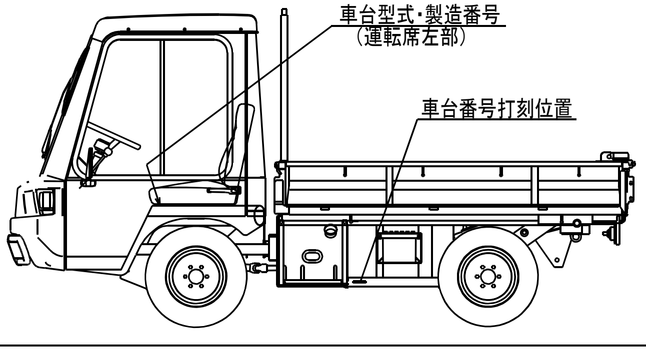
ご使用中の故障やご不審な点、及びサービスに関するご用命は、お買い上げいただいた販売店または指定サービス工場へお気軽にご相談ください。

その際、

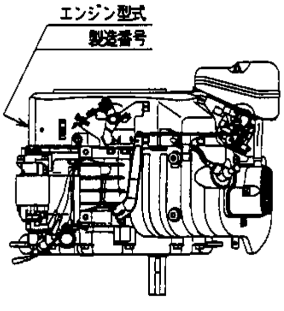
(1) 販売型式名と製造番号

(2) エンジン型式とエンジン番号を併せてご連絡ください。

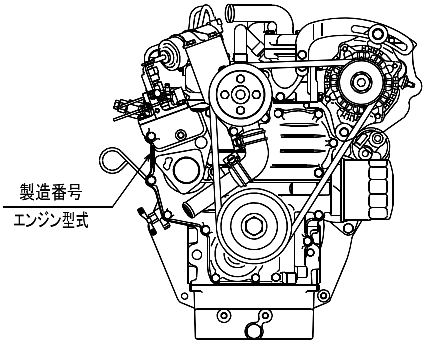
販 売 型 式 名 と 製 造 番 号



エンジン型式とエンジン番号（FE290G）



エンジン型式とエンジン番号（Z482-EB）



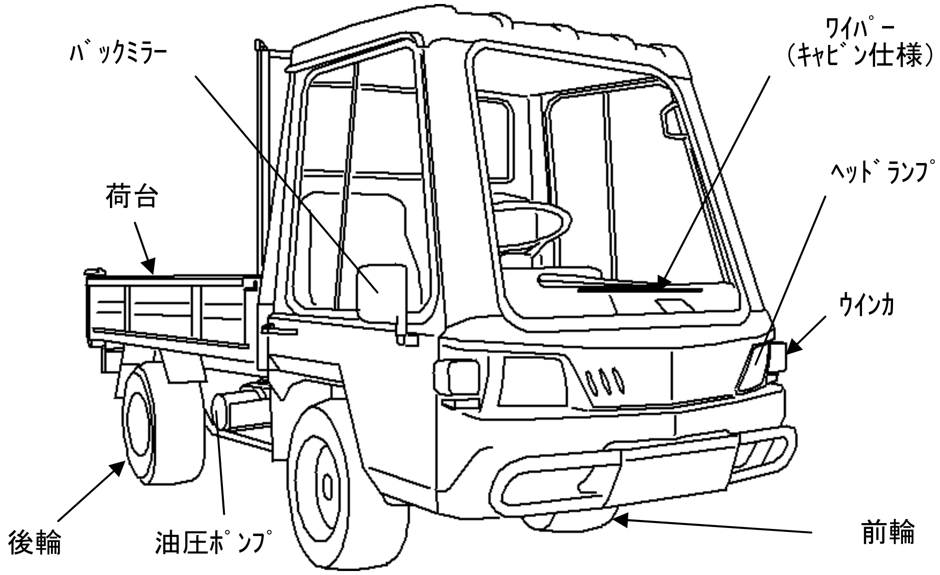
■補修用部品供給年限について

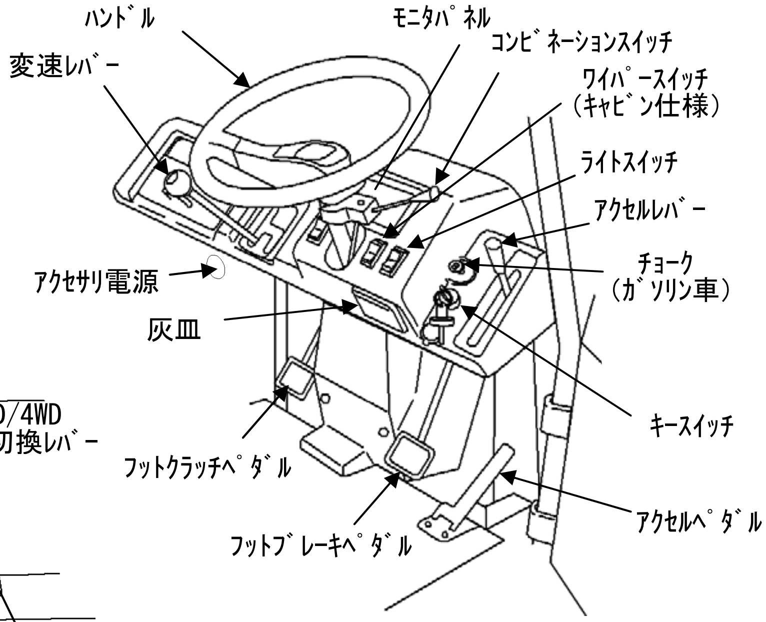
この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後７年といたします。ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただくこともあります。

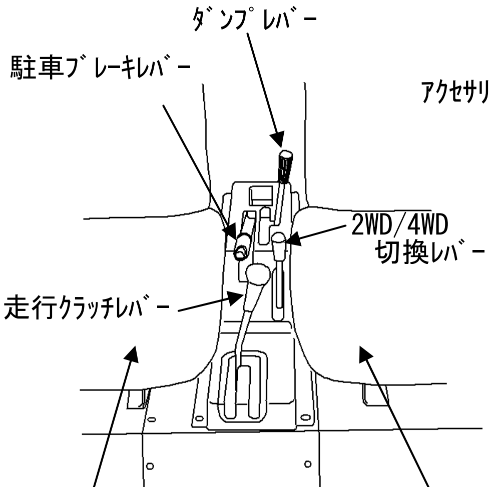
補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

各部の名称とはたらき

各部の名称



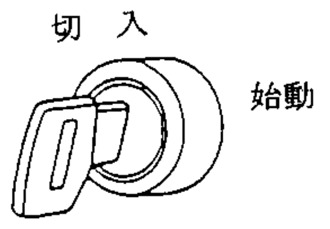




スイッチの名称とはたらき

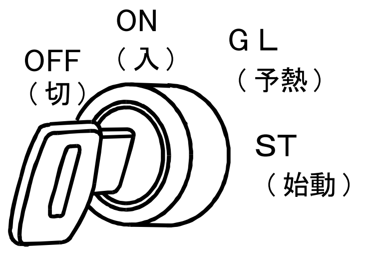
■キースイッチ

●ガソリン車 ｛ＳＬ６２０ＣＢ／ＳＬ６２０Ｂ｝



切………………エンジンが停止し、キーが抜き差しできる位置
入………………エンジン回転中の位置
始動……………エンジンを始動する位置
手を離せば自動的に「入」に戻ります

●ディーゼル車 ｛ＳＬ６２０ＪＢ／ＳＬ６２０ＪＣＢ｝

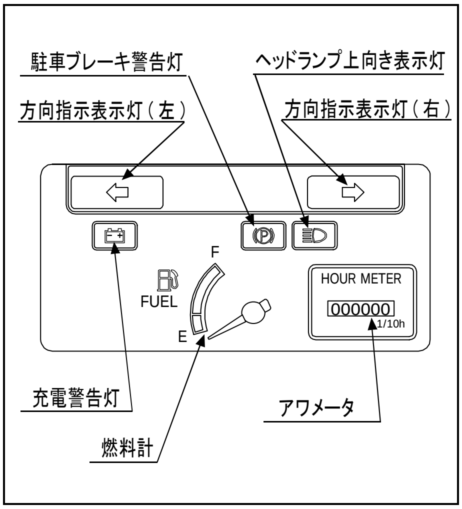


ＯＦＦ(切)……エンジンが停止し、キーが抜き差しできる位置
ＯＮ(入)………エンジン回転中の位置
ＧＬ(予熱)……エンジン燃焼室が予熱される位置
ＳＴ(始動)……エンジンを始動する位置
手を離せば自動的に「入」に戻ります

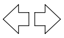
■モニターパネル

●燃料計

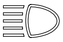
キースイッチが「ＯＮ」のとき、燃料の残量を表示します。
燃料タンクの容量は約１６Ｌです。



●方向指示表示灯

………ウインカスイッチを作動させると点滅します。

●ヘッドランプ上向き表示灯

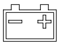
………ヘッドランプを上向きにすると点灯します。

●駐車ブレーキ警告灯

………キースイッチが「ＯＮ」のとき、駐車ブレーキをかけると点灯します。

※走行中は駐車ブレーキの戻し忘れがないようにしてください。

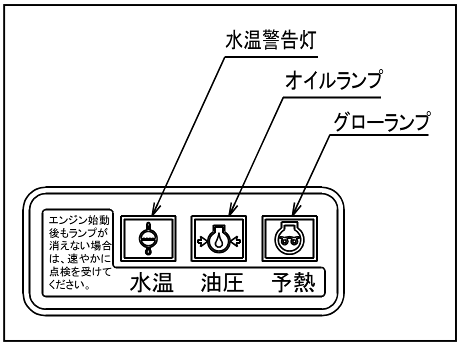
●充電警告灯

………エンジン回転中、バッテリの充電系統に異常があると点灯します。

●アワメータ

走行時間を時間単位で表示します。
※右端の数字は 1/10 時間（６分）です。

■パイロットランプ(ディーゼル仕様車のみ)



●グローランプ
エンジン始動時にキースイッチをＧＬ(予熱)にすると点灯し、消灯すれば予熱完了です。

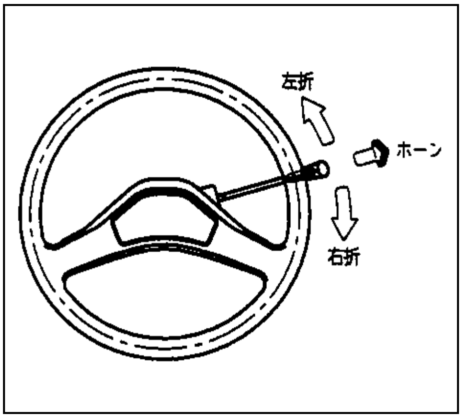
●オイルランプ
エンジン停止時にキースイッチＯＮ(入)で点灯しエンジンを始動させると消灯します。運転中、エンジンオイルが規定量以下になったら点灯して運転者に危険を知らせます。

重要 **●運転中に点灯した場合は、すぐにエンジンを止めて、点検を受けてください。**

●水温警告灯
運転中、エンジン冷却水が一定以上の温度になったら点灯して運転者に危険を知らせます。

重要 **●運転中に点灯した場合は、冷却ファンの異常、冷却水の漏れなど重大な故障が考えられます。エンジンを止めて、点検を受けてください。**
※詳細は「エンジン取扱説明書」をご参照ください。

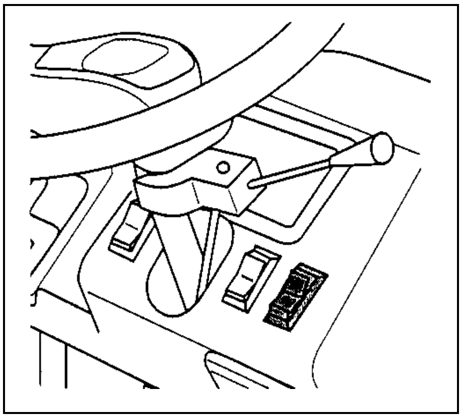
■コンビネーションスイッチ

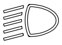
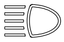


●ウインカスイッチ
(1)　スイッチを操作すると、ウインカランプおよび方向指示表示灯が点滅します。
(2)　右折または左折が終わったら、スイッチを中央に戻しましょう。

●ホーンスイッチ
コンビネーションスイッチを上方向へ引き上げるとホーンが鳴ります。

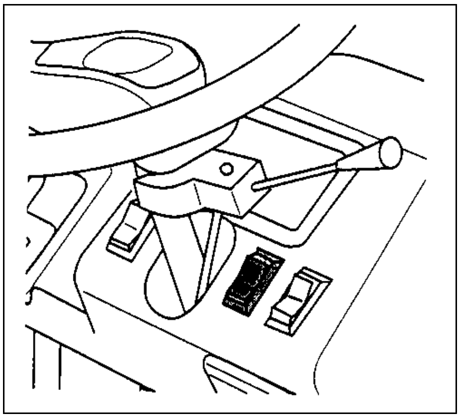
■ライトスイッチ



ＯＦＦ………ヘッドランプ消灯位置
 ………ヘッドランプ下向き照射位置
 ………ヘッドランプ上向き照射位置
モニターパネル内のヘッドランプ上向き表示灯も点灯します。

※ヘッドランプを点灯させると車体後部のテールランプも点灯します。

■ワイパースイッチ（キャビン仕様車のみ）



雨天時ワイパーを作動させるスイッチです。

重要 ●雨天時以外はワイパーを作動させないでください。作動させるとワイパーブレードのゴムが早く磨耗したり、亀裂が生じ、フロントガラスを傷つける場合があります。

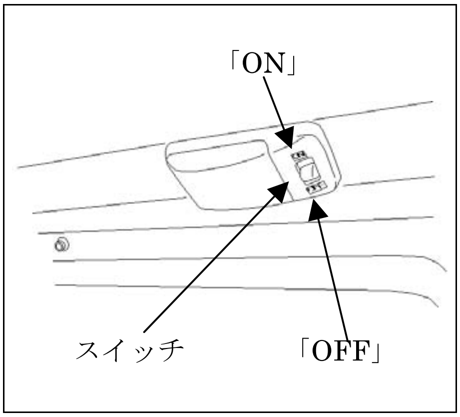
■ルームランプ（キャビン仕様車のみ）

重要 ●ルームランプはキースイッチが「切」の状態でも点灯させることができます。バッテリあがりの原因になりますので、長時間点灯させる場合はエンジンを始動してお使いください。

スイッチを「ON」または「OFF」に上下にスライドさせて点灯・消灯してください。

運転席側ドアと連動させる場合は「ON」と「OFF」の中間にスイッチをスライドさせてください。運転席側ドアを開けると点灯、閉めると消灯します。

※助手席側ドアには連動しません。



■アクセサリ電源（キャビン仕様車のみ）

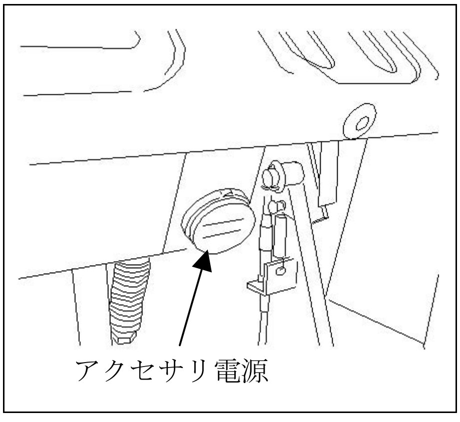
重要 ●アクセサリ電源はキースイッチが「切」の状態でも使用できますが、長時間使用される場合は、バッテリあがり防止のためエンジンを始動してお使いください。

●アクセサリ電源は定格 12V-2A(12V-24W)までの機器が使用できます。主に携帯電話の充電などにご使用ください。

●2A 以上を必要とする機器、12V 仕様以外の機器を接続すると、ヒューズ切れなど深刻なトラブルが起こります。絶対に接続しないでください。

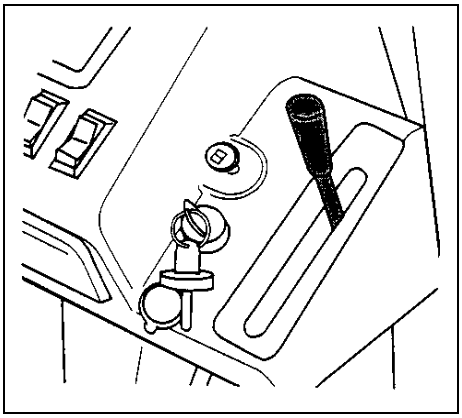
●アクセサリ電源を使用しないときは必ずキャップをしてください。

キャップを開いて、接触不良の起こらないように奥まで確実に、機器を接続してください。



操作レバー及びペダルの名称とはたらき

■アクセルレバーとアクセルペダル



●アクセルレバー

アクセルレバーはアクセルペダルと連動しており、エンジンの回転数を制御するレバーです。主にダンプ作業時に使用します。

・手前に引くと高速回転になります。
・前方に押すと低速回転になります。

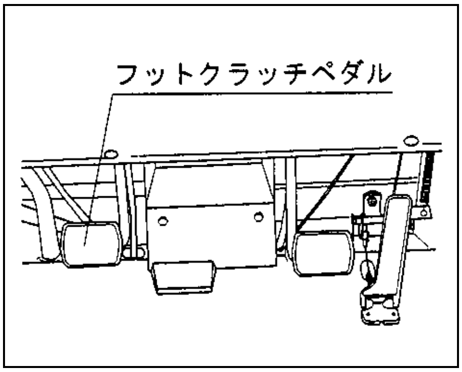
●アクセルペダル

主に道路走行時に使用します。

・ペダルを踏み込むとエンジン回転数が上がります。
・ペダルから足を離すとエンジン回転数がアイドリング回転まで戻ります。

⚠警告 ●アクセルレバーを高速にしたままだと、アクセルペダルは動きません。道路走行時は必ずアクセルレバーを低速にしてください。

■フットクラッチペダル

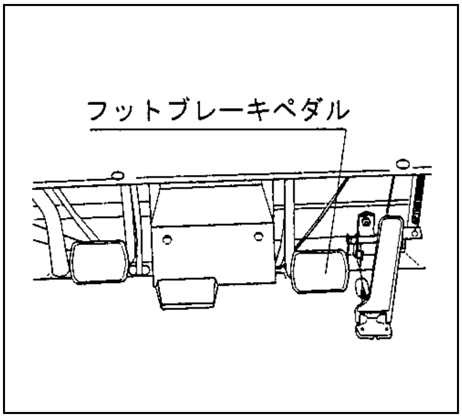


・ペダルを踏み込むとクラッチが切れます。
・ペダルから足を離すとクラッチがつながります。

重要 ●フットクラッチペダルは、切るときは早く、つなぐときはゆっくりと操作してください。

■フットブレーキペダル

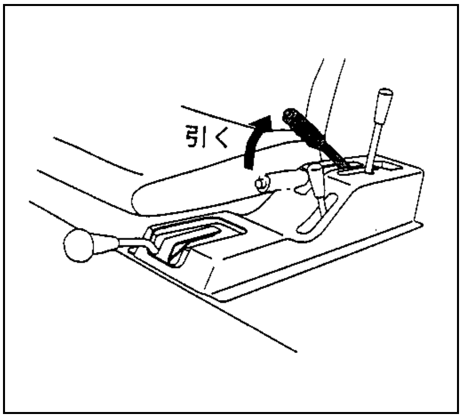
フットブレーキペダルを踏むと、後輪にブレーキがかかり、車体後部のブレーキランプが点灯します。



⚠警告 ●坂道走行時など常時ブレーキペダルを踏んでいると、ブレーキの磨耗が早く、ブレーキの効きがわるくなり衝突・転倒事故を引き起こします。ブレーキは必ず良く効くよう、定期的に点検してください。

■駐車ブレーキレバー

レバーを引くとブレーキがかかります。解除する時は、レバーを軽く引き上げ先端のボタンを押して下へ戻します。



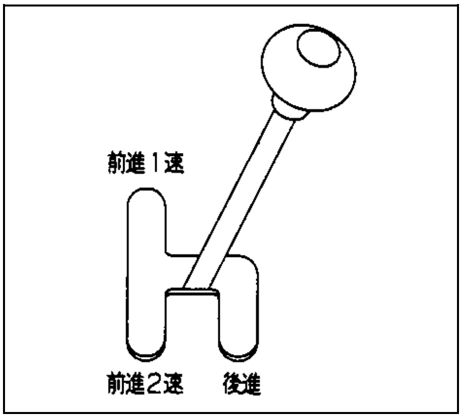
⚠注意 ●駐車時、停車時には必ず駐車ブレーキを確実にかけ、車止めをしてください。これを怠ると車体が自然に動きだしたりして大変危険です。

重要 ●駐車ブレーキをかけるとモニターパネル内の駐車ブレーキ警告灯が点灯します。走行中は駐車ブレーキを確実に戻してください。

■変速レバー

・変速レバーの位置

1	前進１速
2	前進２速
R	後進１速



前進２段・後進１段の変速ができます。変速はクラッチペダルを確実に踏み込み、走行クラッチレバーを「入」にして行ってください。

「前進」⇄「後進」に操作するときは車体を完全に止めてから行ってください。

重要

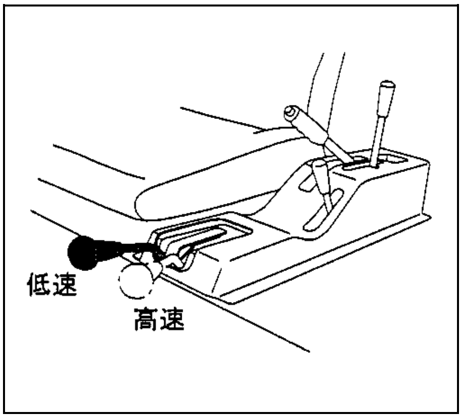
●変速レバーの無理な操作は、トランスミッション内部破損の原因となります。絶対にしないでください。

●変速レバーがスムーズに入らない場合は、走行クラッチレバーが「入」の状態でフットクラッチペダルをちょっとだけつなぎ、すぐに踏み込んで再度変速レバーを操作してください。

●２速で発進するとエンストを起こす場合があります。エンストをする時は、まず１速で発進をし、増速した後、２速へ操作して下さい。

●変速レバーを「R」にするとブザーが鳴り、後進位置にギヤが入っていることを運転者や周囲に知らせます。

■走行クラッチレバー

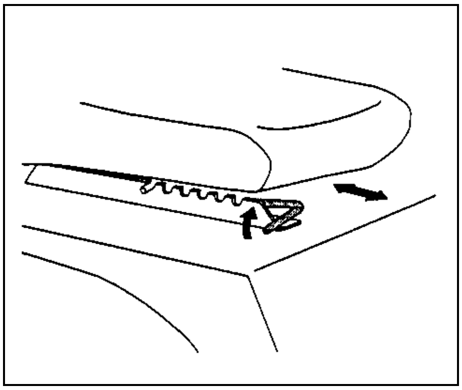


走行クラッチレバーを前方へ倒すと、エンジンの回転がベルトによりトランスミッションに伝達されます。

変速レバーとの組み合わせにより、前進４段・後進２段の変速ができます。路面状態・積載量等の条件にあった変速位置を選んで走行してください。

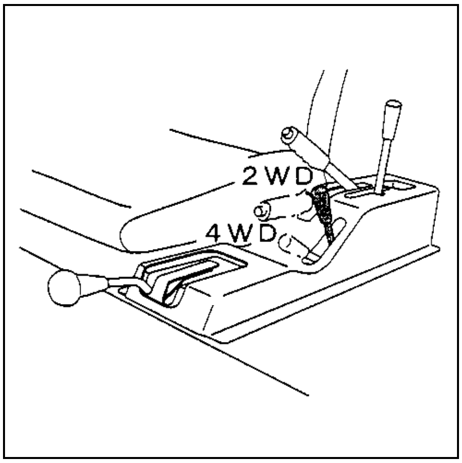
重要
●フットクラッチペダルを踏んで走行クラッチレバーを入れ、フットクラッチペダルをゆっくりと戻すとスムーズに発進できます。
●高速側へ走行クラッチレバーを入れ発進するとエンストを起こす場合があります。エンストをする時は、まず低速側で発進をし、増速した後、高速側へ切換えてください。

■シートレバー



(1)　シート右側下部のシートレバーを「上側に引く」とシートは前後に調整できます。
（補助者席はシート左側下部にあります。）
(2)　調整後はシートレバーがガイド板の溝に確実に入ってロックされていることを確認してください。
（補助者席シートも同様に調整できます。）

■２ＷＤ・４ＷＤ切換レバー

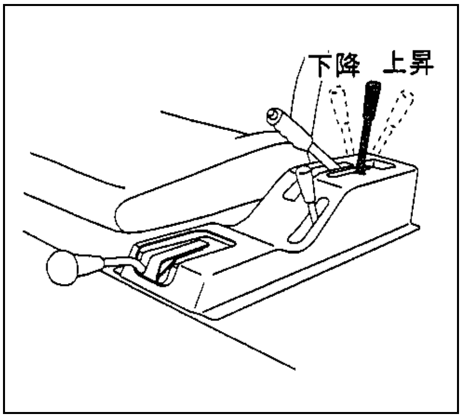


レバー操作により、後輪駆動（２ＷＤ）・４輪駆動（４ＷＤ）の切換えができます。
（走行中でも切換え操作ができます。）

重要
●乾燥した路面の走行は必ず２ＷＤで走行してください。乾燥した路面の４ＷＤでの走行は、タイヤの早期磨耗につながったり、伝導系のトラブル発生や燃料消費量が多くなることがあります。
●軟弱不整地や後輪がスリップする様な場合に４ＷＤを使用してください。通常走行時は２ＷＤで走行してください。
●急な下り坂では４ＷＤを併用してください。前輪にも制動力が伝わり、タイヤのスリップを最小限にすることができます。
●切換レバーを「２ＷＤ」位置にしても、すぐに切換わらない場合があります。そのような時は車体を２～３ｍ前後進させると「２ＷＤ」に切換わります。

■ダンプレバー

レバーを後方へ倒すと荷台がダンプ上昇し、前方へ倒すとダンプ下降します。



注意 ●ダンプレバー操作は、上昇・下降いずれの場合も必ずエンジンをかけた状態で行ってください。ダンプ状態からエンジンをかけないで荷台を降下させると、シリンダ内部が真空となり、正常な動きが損なわれます。また、油圧ポンプエアー抜き穴よりオイルが吹き出す恐れがあります。

警告 ●走行中のダンプ操作は、油圧装置の破損につながるばかりでなく、ハンドル操作の誤りを引き起こし大変危険です。絶対にしないでください。

重要 ●２０秒以上リリーフ弁を作動（ビーという音がします。）させないでください。リリーフ弁が作動したら速やかにレバーを中立位置に戻してください。油圧ポンプの破損につながります。

運転前の準備

運転前の点検について

⚠警告 ●必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、荷台をダンプさせたときは、荷台落下防止策を施してから行ってください。怠ると、手や衣服が巻き込まれたり、挟まれたりして大変危険です。

■始業点検

故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。
始業点検は毎日欠かさず行ってください。

点検は次の順序で実施してください。

(1) 前日、異常のあった箇所

(2) 車体の周りを見て（荷台をダンプさせて）

- ●エンジンオイルの量、および汚れ……………………………50・52
- ●燃料フィルタの水、沈殿物の点検…………………………49・51
- ●バッテリ液の量…………………………………………………49・58・59
- ●油圧駆動ベルトの張り具合、損傷…………………………73
- ●走行ベルトの張り具合、損傷………………………………74
- ●タイヤの空気圧、および磨耗、損傷………………………75
- ●エアクリーナの清掃………………………………………エンジン取扱説明書
- ●冷却水の点検（ディーゼル仕様）…………………………エンジン取扱説明書
- ●タイヤなどの足回りのボルトやナットの緩み
- ●燃料は十分か、燃料キャップの締付け
- ●車体各部の損傷、およびボルト・ナットの緩み
- ●各ランプ類の損傷
- ●ナンバープレートの汚れ、損傷

(3)　運転席に座って
- ●フットブレーキペダル、フットクラッチペダルの遊びと作動……60・61・62
- ●駐車ブレーキの作動……………………………………………………65
- ●変速レバーの作動………………………………………………………70
- ●走行クラッチレバーの作動
- ●バックミラーの汚れ、損傷

(4)　キースイッチを入れて
- ●アクセルペダル、アクセルレバーの作動……………………………69
- ●ランプ類、およびモニターパネル各ランプの点灯・消灯…………27・28
- ●ホーン、バックブザー、ウインカランプの作動

(5)　エンジンを始動して、徐行しながら
- ●ブレーキの効き……………………………………………………………62・63・64
- ●排気ガスの色、異常音
- ●ハンドルの重さ、振れ、取られ、遊び

運転のしかた

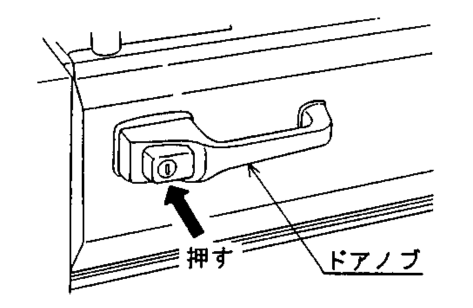
運転操作の要領

■ドアの開閉

注意 ●ドアを開けるときは、前後の安全を十分確認してください。いきなり開けると危険です。風が強い時には特に注意して開けてください。
●ドアが完全に閉まっていない（半ドアの）ときは、走行中開く恐れがありますので、確実に閉めてください。

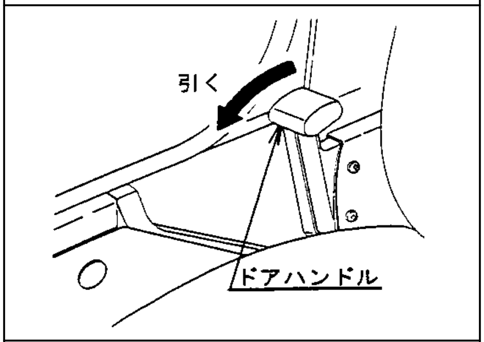
(1)　車外からのドアの開閉

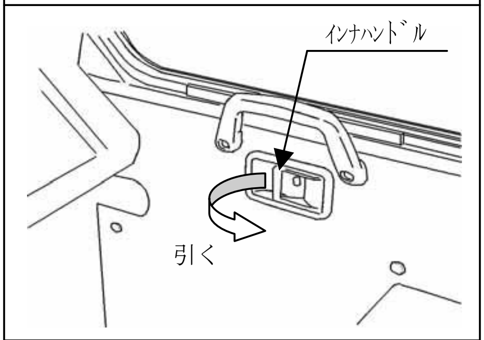
ドアノブを握り、親指でキー差し込み口を押すと、ドアが開きます。



(2)　車内からのドアの開閉

ドアハンドルを前方へ引くか、インナハンドルを内側へ引くとドアが開きます。





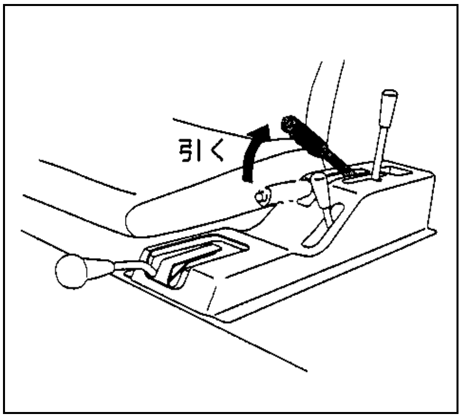
重要 ●ドアキーにより車外からドアの施錠をすることができます。

■エンジンの始動

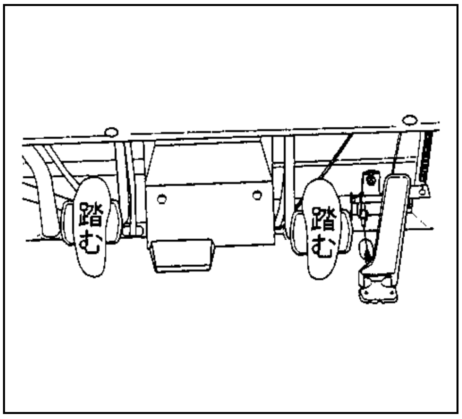
> **⚠警告**
> ●室内でエンジンを始動する時は、窓や戸を開けて、換気を十分に行ってください。換気が悪いと、排気ガス中毒を起こし大変危険です。
> ●エンジンを始動するときは、必ず座席に座って、変速レバーやその他レバー類の位置と、周囲の安全を確認してから行ってください。これを怠ると急発進したりして大変危険です。

●始動のしかた

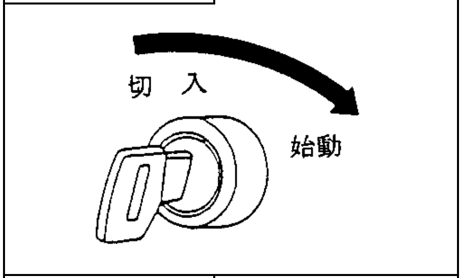
(1) 座席に座り、駐車ブレーキがかかっていることを確認します。

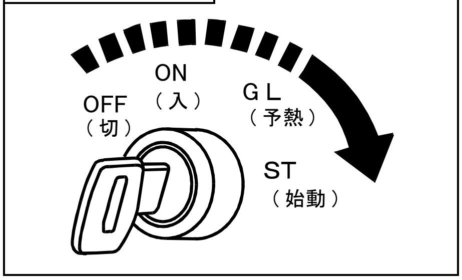


(2) フットクラッチペダルおよびフットブレーキペダルを踏み込んでください。



(3)　キースイッチにキーを差し込み、キーを「始動」位置に回すとエンジンが始動します。エンジンが始動したら、ただちにキーから手を離してください。





重要 ●キーは確実に奥まで差込んでから回してください。奥まで差込んでいない状態で回すと、キーが折れたりキースイッチが破損したり、不具合につながります。

●低温時は次の操作をすると、エンジンがかかりやすくなります。

ガソリン車；チョークレバーを引き、キースイッチを回します。
エンジンがかかったらチョークレバーを徐々に戻します。

ディーゼル車；キースイッチを回す際にＧＬ位置(予熱)でキーを止め、約５秒間予熱します。(約５秒間グローランプが点灯します。)
グローランプが消灯したら、キーをＳＴ位置(始動)に回し、エンジンを始動させてください。

●本機は安全の為、始動安全装置を備えております。フットクラッチペダルを踏み込まないとエンジンがかからない構成となっています。

●１０秒間セルモータを回しても始動しないときは、３０秒程休んでから再操作してください。連続使用するとセルモータが破損します。

●エンジン運転中に、キーを「始動」位置にするとセルモータが破損します。絶対にキーを回さないでください。

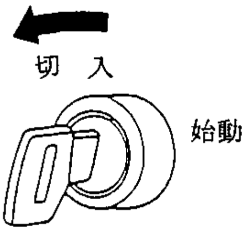
●エンジンの暖機運転をしないで、走行・作業しますと、エンジンの寿命が短くなります。３～５分程度の暖機運転をしてください。

⚠注意 ●暖機運転中は、必ず駐車ブレーキをかけておいてください。これを怠ると、自然に動き出し大変危険です。

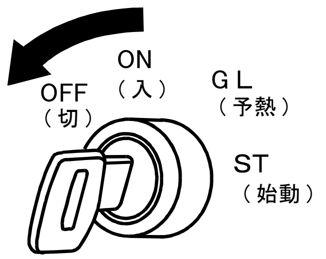
■エンジンの停止

(1)　キースイッチを「切」位置にすると、エンジンは停止します。

ガソリン車

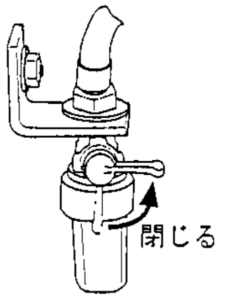


ディーゼル車

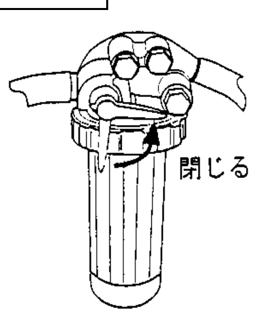


(2)　万一、故障しエンジンが停止しない時は、燃料タンク側面にあるフューエルコックを閉じて、燃料がなくなるまで放置してください。

ガソリン車



ディーゼル車



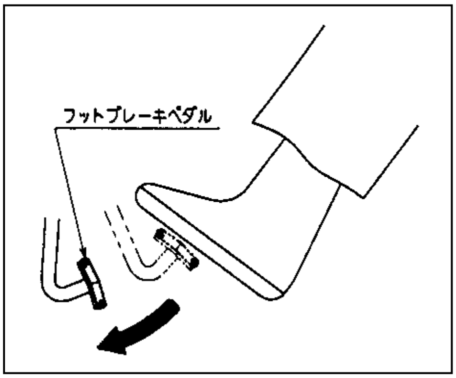
(3)　キースイッチのキーは必ず抜きましょう。(抜いた後は必ずキャップをしてください。)

重要 ●エンジンを高回転のまま停止しないでください。
●運転後は、アイドリング回転で１～２分間程、無負荷運転を行ってからエンジンを停止してください。
特に長時間運転後は、アイドリング回転で３～５分間程、無負荷運転を行ってからエンジンを停止してください。

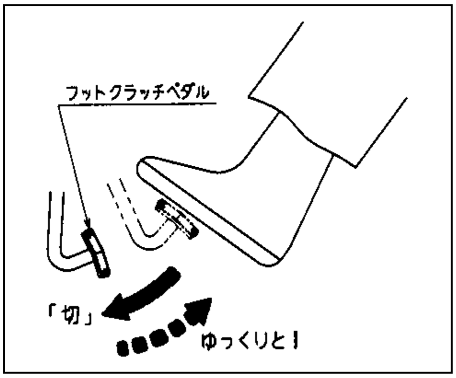
■発進・走行・変速のしかた

⚠警告 ●道路を走行するときは、必ずアクセルペダルを使用してください。アクセルレバーで高速のまま走行すると、急に減速できず危険です。
●フットクラッチペダルは、ゆっくり離してください。急に離すと急発進して危険です。

●発進・走行のしかた



(1)　フットクラッチペダルを踏み込んでクラッチを切ります。
(2)　変速レバー、走行クラッチレバーを希望する変速位置に入れます。
(3)　フットブレーキペダルを踏み、駐車ブレーキを戻します。
(4)　アクセルペダルでエンジン回転を上げながらフットクラッチペダルをゆっくりと離します。



●変速のしかた

変速のしかたについては、３３ページ変速レバー、走行クラッチレバーの項をお読みください。

重要 ●走行中は、フットクラッチペダル、およびフットブレーキペダルから足を離してください。
●クラッチは寿命を伸ばすため、発進以外では、半クラッチ操作をできるだけ避けてください。速度調整をクラッチで行わないでください。

■旋回のしかた

⚠警告 ●旋回するときは、できるだけエンジン回転を落とし、必要な場合は、変速をして低速にしてください。高速で急旋回すると、ハンドル操作を誤ったりして事故につながり大変危険です。

■坂道での運転

⚠警告 ●坂道では、急な旋回をしてはいけません。坂道途中での下回り旋回は、転倒事故の原因となり大変危険です。
●坂の状況に応じた安全なスピードで走行してください。スピードを出しすぎると思わぬ傷害事故を引き起こす恐れがあります。
●坂の途中では、クラッチを切ったり、変速レバーを中立にしないでください。また、下り坂では、エンジンブレーキを使用しフットブレーキの多用はしないでください。これを怠るとスリップや転倒事故の原因になり大変危険です。

●急な上り坂での発進

(1) 駐車ブレーキをかけます。
(2) フットクラッチペダルを踏み込んで、クラッチを切ります。
(3) 変速レバーを１速位置に入れます。
(4) 走行クラッチレバーを低速位置に入れます。
(5) アクセルペダルを踏みエンジン回転を中速にします。
(6) フットクラッチペダルをゆっくりと離し、半クラッチ状態にします。
(7) 同時に駐車ブレーキを解除しながら、アクセルペダルを踏み込みエンジン回転を上げながら、駐車ブレーキを完全に解除すると同時にフットクラッチペダルから足を離し発進します。

●下り坂での運転

下り坂では必ず変速レバーを１速にし、エンジンブレーキを使用してください。フットブレーキペダルを踏むだけで下るのは危険です。

⚠警告 ●急な下り坂では４ＷＤの併用をしてください。４ＷＤを併用することで、前輪にも制動力が伝わり、タイヤのスリップを最小限にすることができます。

■制動および駐車・停車

(1)　エンジンの回転を下げます。
(2)　フットクラッチペダルを踏み込み、同時にフットブレーキペダルを踏み込みます。
(3)　車両が完全に停止してから駐車ブレーキをかけます。
(4)　走行クラッチレバーを切ります。
(5)　キースイッチを「切」位置にし、エンジンを停止してください。

⚠警告

●積荷や路面の状況により制動距離（停止距離）は変わります。ブレーキは早めに踏みましょう。

●駐車・停車するときは、駐車ブレーキを確実にかけてください。

●車両から離れるときは、エンジンを停止し、キースイッチを抜き取り、駐車ブレーキをかけ、車止めをしてください。止める所は、広い地面の硬い場所を選んでください。車両が動きだしたりして大変危険です。

●緊急時以外には、できるだけ急ブレーキをかけないでください。車体やトランスミッションに過大な力がかかり、機械の寿命を短くします。

●車両を草や可燃物の上に止めてエンジンの空吹かしをしたり、高回転にしたりすると排気管の熱や排気ガスにより、火災の原因になる恐れがあります。

積載要領

■最大作業能力

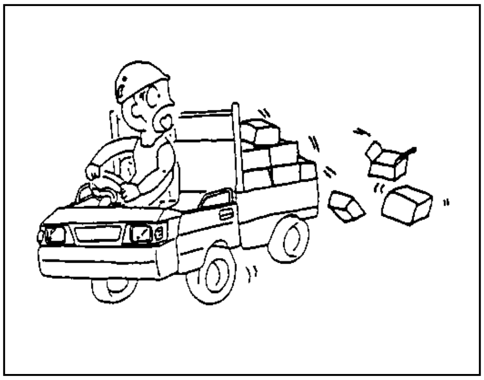
⚠警告
●最大作業能力を厳守し、積過ぎないでください。積過ぎは車体バランスを悪くし、転倒事故の原因となり大変危険です。
●積過ぎは、タイヤのパンク等の原因となり、ハンドル操作を誤り事故を起こす恐れがあり大変危険です。

作業能力は下表の通りです。必ず守って安全に作業を行ってください。

勾　　配	圃　　場
	最大作業能力（kg）
平坦地（０°～５°）	６００
５°～２０°未満	３００
２０°以上	積載・無積載に関わらず使用禁止

■バランス

安全に効率よく作業するため、バランスよく積載してください。



重要 ●積荷の重心が荷台中心部になるよう積載してください。

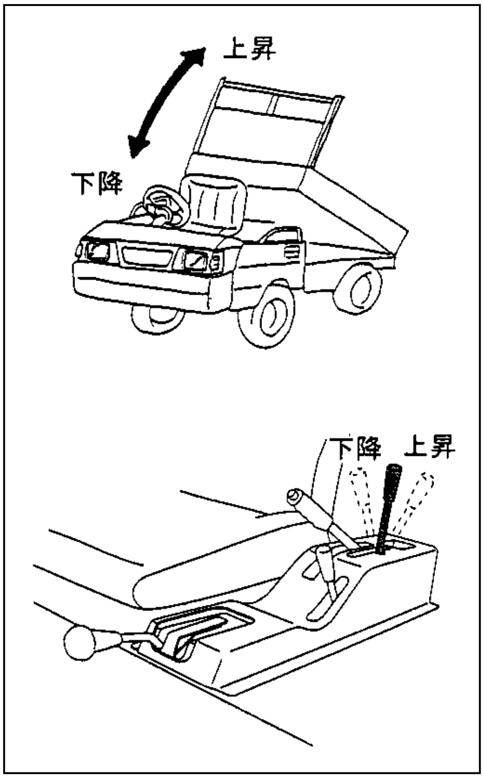
⚠危険 ●荷動きしないようにしっかりとロープ等で積荷を固定してください。これを怠ると、車体重心が変わりバランスをくずし転倒事故を起こしたり、積荷が落下したりして大変危険です。
●荷物を高く積まないでください。重心が高くなり、積荷のバランスが悪くなり、落下等事故の原因となり大変危険です。

⚠注意 ●やむを得ず、積荷が高くなる場合は、荷くずれしないように確実にロープ等で固定し、ゆっくりと低速で運搬してください。

油圧操作

■ダンプ操作

ダンプ操作は、上昇・下降いずれの場合にも、必ずエンジンをかけたままの状態で行ってください。



●操作方法

荷台上昇……ダンプレバーを引き上げると荷台が上昇（ダンプ）します。

荷台下降……ダンプレバーを押し下げると荷台が下降します。

重要

●ダンプレバーはいっぱいに操作し、途中で止めて操作しないでください。

●２０秒以上連続してリリーフ弁を作動（ビーという音がします。）させないでください。油圧ポンプの破損につながります。

⚠注意

●足場の悪い所や傾斜地でのダンプ作業は避けてください。

●周囲の安全を確認し、駐車ブレーキをかけて操作してください。

●ダンプレバーを操作してもリリーフ弁が作動（ビーという音がします。）して荷台がダンプしない場合は、積過ぎですから積荷を減らしてください。

⚠警告

- 荷台をダンプ状態からエンジンをかけないで下降させると、シリンダー内が真空となり、スムーズな操作ができなくなります。また、オイルが油圧ポンプから噴き出し、オイルの減少の原因となります。
- 荷が残ったまま、荷台を下降させる場合は、車体に衝突させないようエンジン回転をおとしゆっくりと下げてください。これを怠ると車体の破損の原因となるばかりでなく、思わぬ事故につながり大変危険です。
- 上昇させた荷台の下に身体をもぐり込ませないでください。荷台が下降し、はさまれる恐れがあります。修理・調整等やむを得ない場合は、必ず荷台が下降しないよう下降防止を施してください。作業が終わったら下降防止を解除してください。機体の破損につながります。
- 走行中のダンプ操作は、油圧装置の破損につながるばかりでなく、ハンドル操作の誤りを引き起こし、大変危険です。絶対にしないでください。

点検・整備

＜定期点検整備箇所一覧表＞

本機を安全に使用するためにまた、事故を未然に防ぐために必ず点検・整備を行ってください。

○点検・調整　◎補給　☆初期交換　●交換

点検箇所		項目	点検時期（目安）				参照ページ
			始業前	50h毎	100h毎	300h毎	
本体部	ミッションオイル	油量		☆	○	●	52・53
	フロントデフケース	油量		☆	○	●	53
	クラッチペダル	遊び	○				60・61
	ブレーキペダル	遊び・効き具合	○				62・63
	各レバー類	作動・機能	○				—
	ブレーキシュー	磨耗		○		●	63・64
	Vベルト	伸び・亀裂	○				74
	タイヤ	空気圧・亀裂	○				75
	ダンパゴム	劣化・変形			○		76
	各スイッチ・ランプ	作動・点灯	○				—
	各支点・摺動部	油・グリス		○			—
	各部ボルト・ナット	締付状態	○				—
	バッテリ	液量・接続	○		○		58・59
	各部ワイヤ	外観・伸び	○				—
	かじ取り装置 ボールジョイント	遊び・締付状態		○		○	—
	燃料	量・燃料もれ	○				51
	燃料フィルタ	汚れ	○		○	○	
	燃料ホース	接続状態・亀裂	○				—
油圧部	油圧ポンプ	油質・油量		○	◎	●	54
	油圧ホース	接続状態・亀裂	○				—
	油圧シリンダ	油漏れ	○				—
エンジン部関係については、「エンジン取扱説明書」をご参照ください。							

重要 ●年に１回はお求めの販売店にて点検整備を受けてください。

■給油

＜給油箇所一覧表＞

給油箇所		油の種類	給油量	参照ページ
燃料	ガソリン車	自動車用無鉛レギュラーガソリン	１６Ｌ	51
	ディーゼル車	ディーゼル軽油・ＪＩＳ２～３号		
エンジン	ガソリン車	ガソリンエンジンオイルＳＤ級以上	０．９Ｌ	52
	ディーゼル車	ディーゼルエンジンオイル１０Ｗ－３０CD級以上	１．８Ｌ	
トランスミッション		ギヤオイル８０Ｗ－９０	２．４Ｌ	52・53
フロントデフ		ギヤオイル８０Ｗ－９０	８５０cc	53
油圧ポンプ		ディーゼルエンジンオイル１０Ｗ－３０CD級以上	２．３Ｌ	54
グリスニップル		リチューム系一般グリス	適量	55
各支点・摺動部		ギヤオイルor リチューム系一般グリス	適量	－

重要
●機械にとって潤滑油は人の血液にも相当する大切なものです。給油をおろそかにすると機械が円滑に動作しないばかりか、故障の原因となり、機械の寿命を短くします。常に点検し、早めに補給又は交換してください。
●給油作業は、ゴミ・水等が入らないよう十分注意して行ってください。

⚠警告
●給油および点検をするときは安全を確認して行ってください。
①車両を平坦な広い場所に置く。
②エンジンを止める。
③駐車ブレーキをかける。
④荷台をダンプさせたときは落下防止をする。
※安全を確認せずに点検・整備すると、思わぬ傷害事故を引き起こすことがあります。

■点検と清掃

⚠危険
●火気厳禁
給油時は、エンジンを必ず停止してください。
●燃料を補給するときは、くわえタバコなどの火気は厳禁です。
引火爆発・火災の原因になります。

(1) 燃料　ガソリン車…………自動車用無鉛レギュラーガソリン
ディーゼル車………ディーゼル軽油（ＪＩＳ２号～３号）

●燃料タンク内に水・ゴミ等が入らないよう注意してください。
●燃料キャップが確実に締まっているか確認してください。

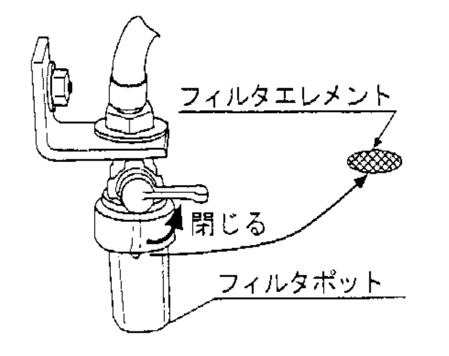
(2) フィルタポットの清掃と交換

●燃料中に含まれる水・ゴミ等がフィルタポット内に沈殿していないか点検します。

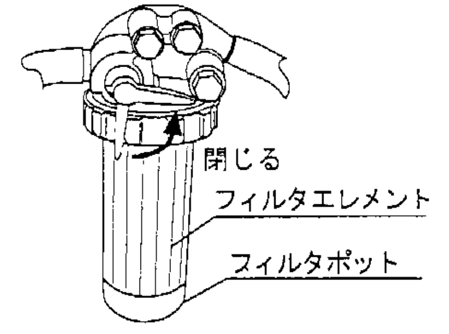
●水・ゴミ等がたまっている場合は、フィルタポットを外し、フィルタエレメント及びフィルタポット内部をガソリン車の場合はガソリンで、ディーゼル車の場合は軽油で洗浄してください。

●締付けの際は､燃料もれのないよう十分注意してください。

ガソリン車

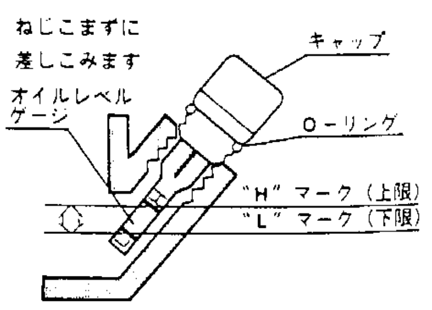


ディーゼル車



(3) エンジンオイル

ガソリン車

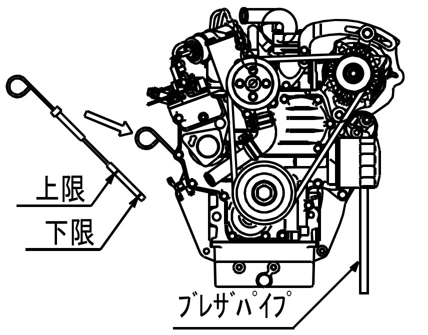


●機体を水平にして、オイルゲージを抜いて先端をきれいに拭き、改めて差し込んでから再び抜き「上限と下限の間」にオイルがあるか調べます。

●「下限」以下の場合は、「上限」まで補給してください。

重要 **●エンジンオイルは「上限」以上に入れないでください。**
ディーゼル車の場合、入れすぎるとブレザパイプからエンジンオイルが噴出することがあります。

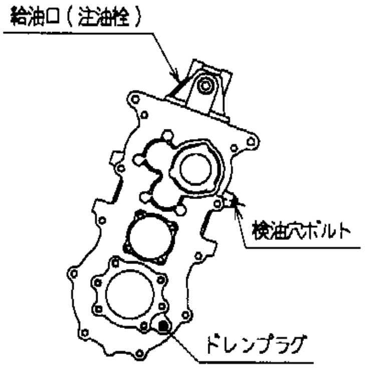
ディーゼル車



※オイル交換･エアクリーナの清掃等エンジンの保守点検につきましては､別冊で添付しております｢エンジン取扱説明書｣をお読みください。

(4) ミッションオイルの給油・交換

＜給油＞



●検油穴のボルトをゆるめオイルが出てくるか調べます。

●検油穴より出ない場合は、検油穴から出てくるまで補給し、検油穴のボルトを締めた後、さらに０．３Ｌ追加補給してください。

＜交換＞

●トランスミッション下部のドレンプラグを外し廃油を廃油受皿に排出します。

●オイルが出なくなったらドレンプラグにシールテープを巻き、元のようにしっかりと締め込みます。

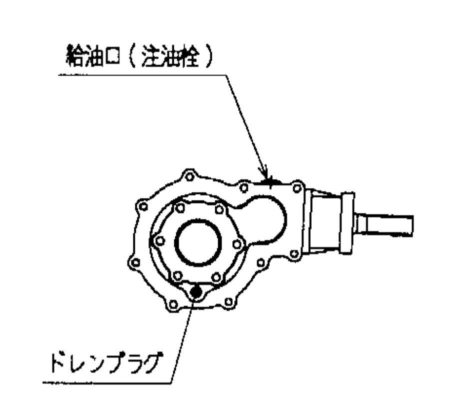
●検油穴のボルトを外し、給油口から検油穴よりオイルが出るまで給油します。

●検油穴のボルトを元のように締め込み、さらにオイルを０．３Ｌ追加給油します。

●オイル給油後は、注油栓を元のように差し込んでください。

重要 **●トランスミッションのオイルは、路面状態など走行条件により給油口よりにじみ出たり、注油栓のエアー抜き穴から出る場合がありますので頻繁に点検し、補給してください。**

(5) フロントデフのオイル交換



●フロントデフケース下部のドレンプラグを外し廃油を廃油受皿に排出します。

●オイルが出なくなったらドレンプラグにシールテープを巻き、元のようにしっかりと締め込みます。

●フロントデフケース上部の給油口よりギヤオイルを８５０cc 給油してください。
（同梱部品のジョウゴをご利用ください。）

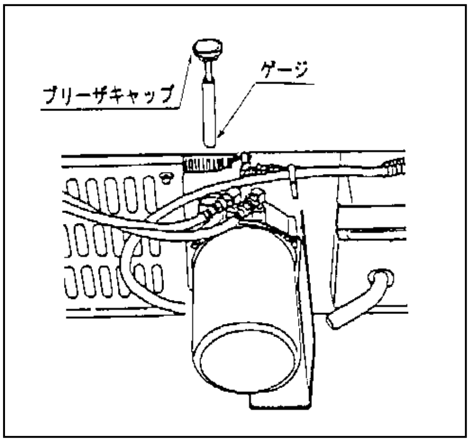
●給油後は注油栓を元のように差し込んでください。

警告

●廃油は廃油受皿等に取り、たれ流したりしないでください。公害のもととなります。

●廃油受皿に排出したオイル内に鉄紛等が混入している場合は、ギヤの磨耗などミッション破損の前兆であり、トランスミッションの分解チェックを要します。お買い上げいただいた販売店にご相談ください。

(6) 油圧ポンプオイルの給油



●荷台を降ろした状態で、油圧ポンプ上部のブリーザキャップを取り外し、キャップ先端のゲージをきれいに拭き、改めて締め込んで再び取り外し、作動油がゲージ先端１０mm程入っているか点検します。

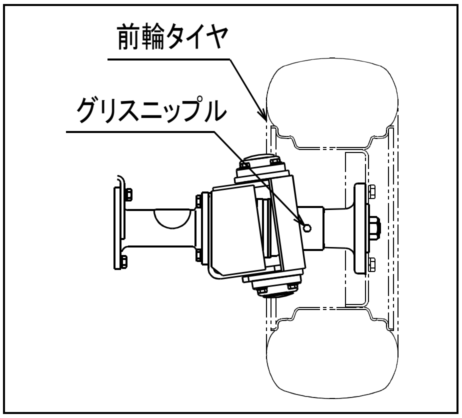
●作動油が少ない場合は補給してください。

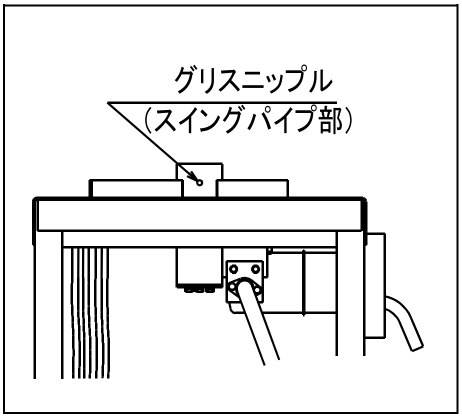
重要 ●荷台をダンプさせた時と、下ろした時では、シリンダ内の油量が異なります。油量は必ず荷台を降ろした状態で点検してください。
●油量が多いとブリーザキャップのエアー抜き穴より噴き出る場合があります。
●作動油の早期減少は異常ですからお買い上げの販売店で点検整備を受けてください。

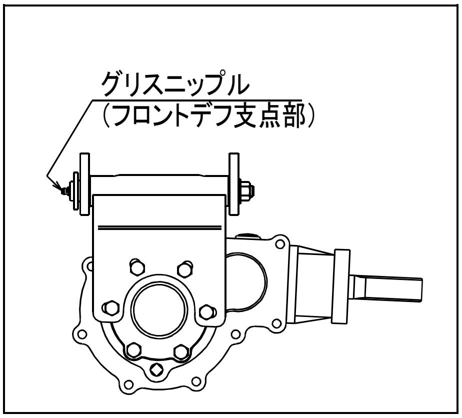
(7) グリスの注入について

●前輪ナックル部およびフレーム間のスイングパイプ、フロントデフ支点部に市販のグリスガンでグリスを適量注入します。

●前輪ナックル部はジャッキアップを行い前輪タイヤを外した状態でグリスを注入してください。







電気系統の点検と清掃

■電気配線の点検と清掃

⚠注意

- 配線の端子や接続部の緩みおよび配線の損傷は、電気部品の性能を損なうだけでなく、ショート（短絡）・漏電の原因となり、火災事故になる恐れがあり大変危険です。傷んだ配線は、早めに交換・修理をしてください。
- バッテリ、電気配線およびマフラやエンジン周辺部の可燃物・ゴミなどは取除いてください。これを怠ると火災の原因となります。
- １年に１回、販売店での定期点検を受けてください。また、安心して運転できるよう電気配線は、２年毎に交換することをお勧めします。

下記の項目につき、定期的に点検してください。

(1)　配線の損傷がないこと。配線被覆が破れているときは、ビニールテープを巻き、補修してください。
(2)　配線のクランプの緩みがないこと。配線がクランプより外れているときは、所定のクランプに配線をセットしてください。
(3)　ターミナル、カプラの接続部の緩みがないこと。
(4)　各スイッチが確実に作動すること。

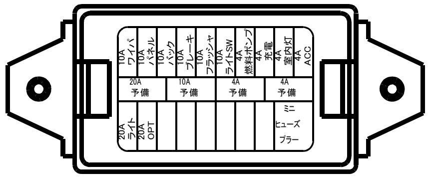
重要

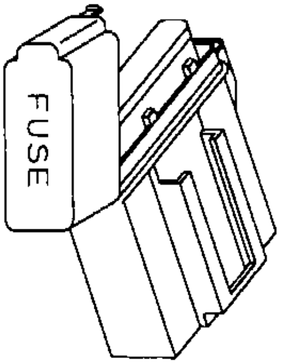
- バッテリ、エンジンまわりの電気配線、電装部品等に圧力水をかけないでください。電気部品の故障の原因となります。

■ヒューズの取扱い

ヒューズは助手席足元及び荷台下のヒューズボックスの中に入っています。ヒューズが切れた場合は、必ず同じ容量のヒューズと交換してください。大容量のヒューズをつけると焼損の原因となります。

ヒューズボックスのふたにマークが貼り付けてありますので、これと照らし合わせてチェックしてください。





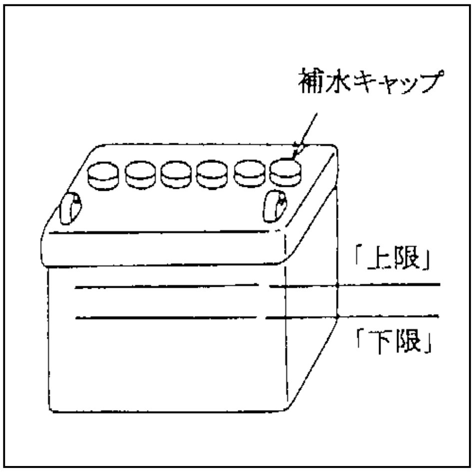
重要 ●ヒューズが切れた場合は、切れた原因を調べ、修理後同容量のヒューズと交換してください。絶対に針金等で代用しないでください。

バッテリの点検と取扱い

⚠警告
- ●ショートやスパークさせたり、タバコ等の火気を近づけないでください。また、充電は風通しのよい所で行ってください。これを怠ると引火爆発することがあり大変危険です。
- ●バッテリの液量がバッテリの側面に表示されている下限(LOWER LEVEL)以下になったまま使用を続けたり充電を行うと、容器内の各部位の劣化の進行が促進され、バッテリの寿命を縮めたり、破裂（爆発）の原因となる恐れがあります。
- ●バッテリ液（電解液）は希硫酸で劇毒物です。バッテリ液を体や服につけないようにしてください。失明ややけどをすることがあり大変危険です。もし、目・皮膚・服についたときは、直ちに多量の水で洗ってください。なお、目に入ったときは、水洗い後、医師の治療を受けてください。
- ●ブースターケーブル使用時には、危険のないように取扱ってください。（２２ページを参照してください。）

(1) バッテリの液量点検

バッテリ液は使っているうちに蒸発します。バッテリ液がバッテリケース液面レベルの上限線から下限線の間にあるか、バッテリが水平になる姿勢で確認してください。不足している場合はキャップを外し、上限まで補給してください。



- ・液が自然に減ったときは、蒸留水を補給します。
- ・液をこぼしたときは、希硫酸を補給します。

重要 ●バッテリ液が不足すると、バッテリを傷め、多過ぎると液がこぼれ車体を腐蝕させます。

(2) バッテリの取扱い

●気温が低下すると、バッテリの性能も低下します。冬季は特にバッテリの管理に注意してください。

●バッテリは使用しなくても自己放電しますから補充電を行ってください。

夏季--------１カ月毎　　　冬季--------２カ月毎

●本機を長期格納する場合は、バッテリを外し、日光の当らない乾燥した場所に保存してください。どうしても本機に取付けたまま保管しなければならないときは必ずアース側（㊀側）を外してください。

●新品のバッテリと交換する場合は、必ず指定した型式のバッテリを使用してください。

・ガソリン車…………３４Ａ１９Ｒ

・ディーゼル車………４６Ｂ２４Ｒ

重要

●バッテリは必ず車体から取外して充電してください。電装品の損傷の他に配線などを傷めることがあります。

●バッテリの急速充電はバッテリの寿命を短くしますから、できるだけ避けてください。

●充電はバッテリの㊉を充電器の㊉に、㊀を充電器の㊀にそれぞれ接続して、普通の充電方法で行ってください。

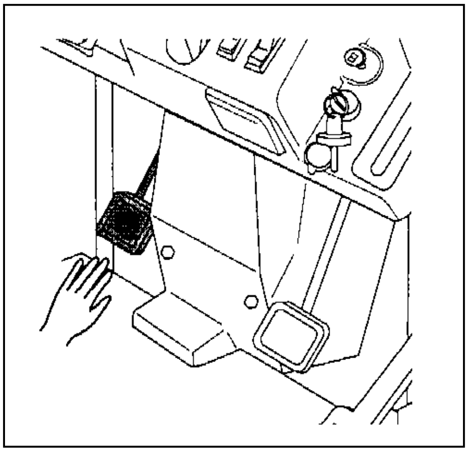
●バッテリを外し、再度取付けるときは、バッテリの㊉・㊀のコードを元通りに配線し、まわりに接触しないように締付けてください。

●バッテリコード(端子)を取外すときは、㊀コードを先に外します。バッテリコードを取付けるときは、㊉コードを先に取付けます。これを怠るとショートして火花が飛んだりして危険です。

各部の調整

⚠警告
●各部の点検・調整を行う場合は、必ずエンジンを停止させ、平坦地で作業してください。
●荷台下部の点検・調整を行う場合は、必ず下降防止をしてください。

■フットクラッチペダルの調整



●点検
　ペダルの遊び量が５～１０mmになっているか確認してください。

⚠警告
●クラッチの調整が悪いと、クラッチ切れ不良、スリップを起こす等思わぬ事故につながり大変危険です。

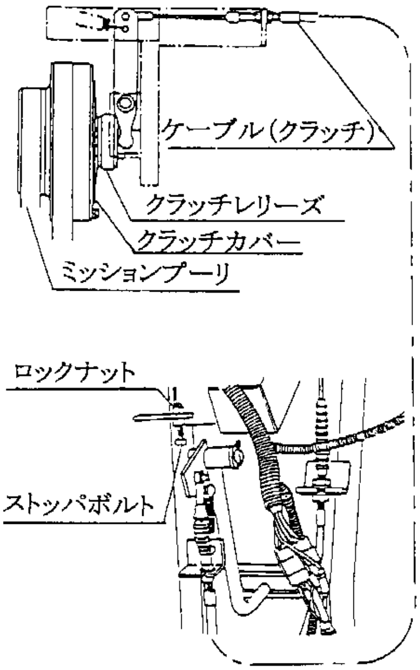
●調整

(1)　ケーブル（クラッチ）のトランスミッション側アジャストナットを緩めます。

(2)　クラッチレリーズがクラッチカバーにガタ無く軽く接触するように、アジャストナットで調整します。

(3)　アジャストナットを確実に締付けてください。

(4) クラッチペダルを踏み込んだ時、クラッチレリーズをクラッチカバー側に6mm押しつけた位置でクラッチペダルが止まるようにストッパボルトをロックナットでセットします。



重要 ●クラッチカバーを6mm以上押しつけるとクラッチ板が損傷する場合があります。ストッパボルトの調整は慎重に行ってください。

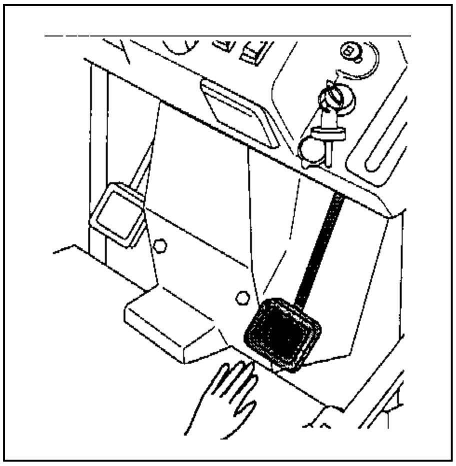
警告 ●洗車する際は、クラッチ伝導部（クラッチカバー・クラッチレリーズ・ミッションプーリ）に水を掛けないでください。クラッチがスリップしたり、錆付いて切れなくなったり大変危険です。

■フットブレーキペダルの調整

⚠警告 ●ブレーキ調整を行う際は、ブレーキが解除の状態になりますので、水平な場所で車止めを施して行ってください。これを怠ると、車両が自然に動き出し、思わぬ事故が起き大変危険です。

●点検

ペダルの遊び量が０～５mmになっているか確認してください。



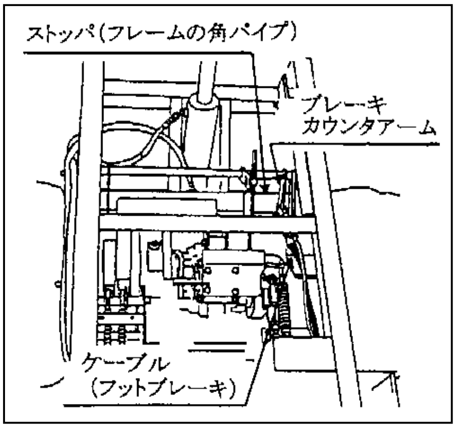
重要 ●ペダルの遊び量が大きくなるとブレーキの効き具合が悪くなるばかりか、半ブレーキ状態となりブレーキシューの磨耗の原因となります。

●調整

(1) 駐車ブレーキを解除します。

(2) ケーブル（フットブレーキ）のアジャストナットを緩め、ペダルの遊び量が０～５mmになるようケーブルを張って調整します。

(3) ケーブルのアジャストナットを確実に締め付けてください。



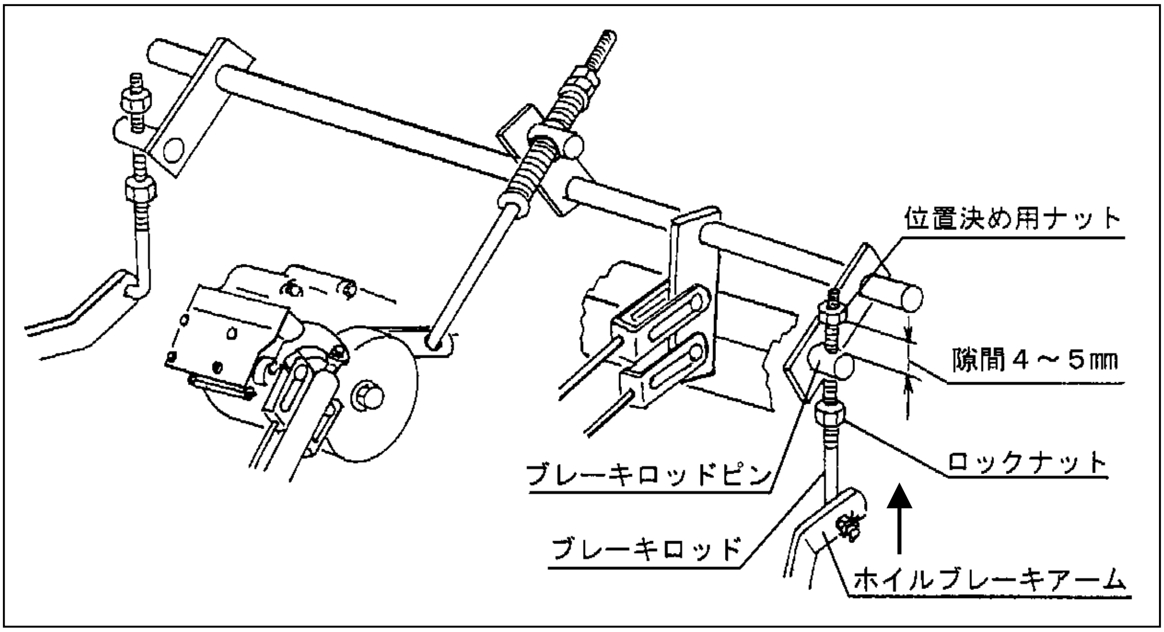
重要 ●ケーブル（フットブレーキ）を張り過ぎてブレーキカウンタのアームが下部のストッパから離れてしまわないようにしてください。ブレーキロッドの調整が難しくなります。

⚠注意 ●ケーブル（フットブレーキ）の張りが弱いと、駐車ブレーキをかけたとき、テールランプ（ブレーキ）が点灯する場合があります。このような時は正しいブレーキ調整が必要です。

■後輪のブレーキロッドの調整

ブレーキシューが磨耗し、フットブレーキペダルの調整を行ってもブレーキの効きが悪いときに調整します。

(1) 駐車ブレーキを解除します。
(2) ブレーキロッドのロックナットを緩めます。
(3) ホイルブレーキアームを矢印方向に手で引き上げ、ホイルブレーキをかけた状態で、ブレーキロッドピンと位置決め用ナットの隙間が４～５mmになるように位置決め用ナットをまわします。
(4) ホイルブレーキアームから手を離し、ブレーキロッドピンと位置決め用ナットの隙間を０mmにします。
(5) ロックナットだけまわして確実に締め込みます。

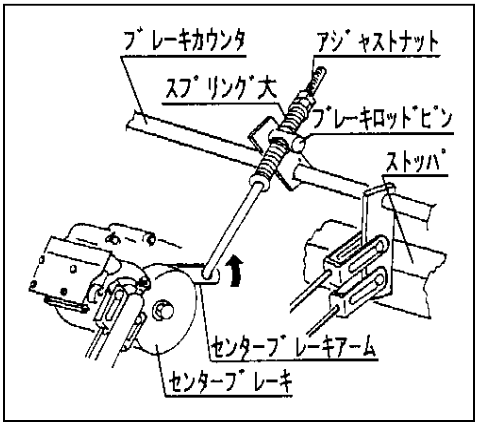


重要 ●ブレーキロッドによる調整ができなくなったときは、ブレーキシューの交換を要します。お買い上げの販売店へご連絡ください。

⚠警告 ●ホイルブレーキは左右の後輪それぞれに設けられています。ブレーキロッドの調整は左右同時に行ってください。これを怠るとブレーキが片効きになり、傷害事故を引き起こす恐れがあります。

■センターブレーキの調整

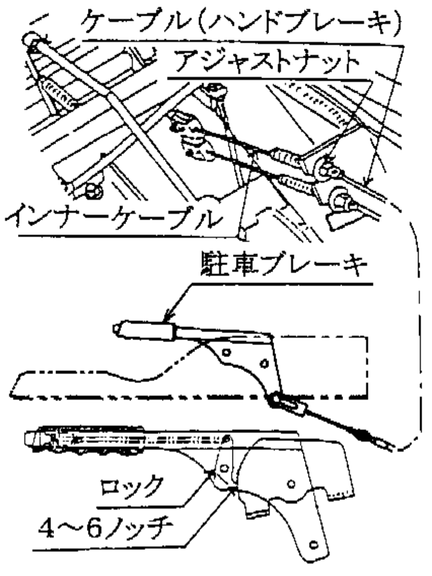
ブレーキカウンタのアームがストッパにあたっているか確認します。



(1)　センターブレーキアームを手で矢印方向に押しセンターブレーキを効かせます。
(2)　このとき、スプリング大とブレーキロッドピンとの隙間を０～１ｍｍになるようにアジャストナットで調整します。

重要 ●調整後、駐車ブレーキが確実にかかること、およびブレーキが正常に作動することを確認してください。
●センターブレーキはホイルブレーキよりもブレーキシューの磨耗が早い傾向があります。ブレーキロッドによる調整ができなくなったときは、ブレーキシューの交換を要します。お買い上げの販売店へご連絡ください。

■駐車ブレーキレバーの調整



駐車ブレーキレバーを引いて、駐車ブレーキレバーのロックがおよそ４〜６ノッチでとまるように、ケーブル（ハンドブレーキ）のアジャストナットで調整します。

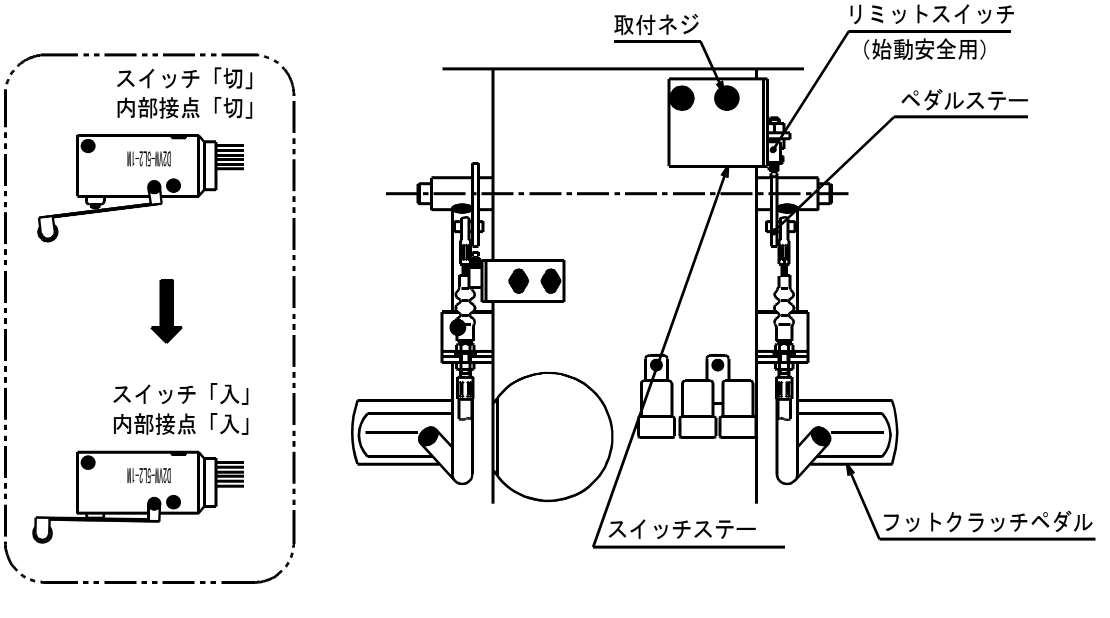
重要 ●フットブレーキペダル、駐車ブレーキレバー等ブレーキの調整を行った後には、必ず駐車ブレーキを解除して、変速レバー「Ｎ」・走行クラッチレバー「切」の状態で車体を押して動くことを確認してください。

⚠警告 ●駐車ブレーキレバーの調整は、必ずフットブレーキペダルの調整をしてから行ってください。これを怠ると、フットブレーキペダルを踏んでもブレーキが効かないで、傷害事故を引き起こす恐れがあります。

■始動安全スイッチの調整

リミットスイッチの調整不良・故障により、フットクラッチペダルを踏み込んでもエンジンがかからなかったり、フットクラッチペダルを踏まなくてもエンジンがかかる場合に調整・交換をします。

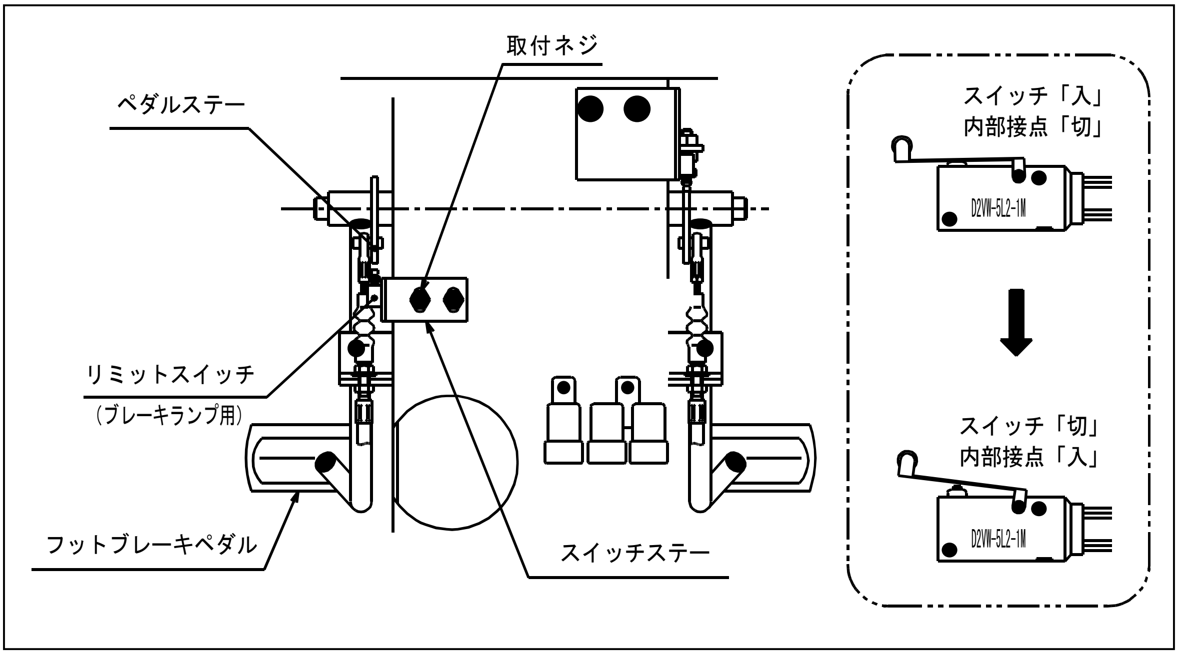
(1)　本機の樹脂フロントカバーを外します。
(2)　フットクラッチペダル側リミットスイッチがペダルステーから離れた状態でスイッチが切れていることを確認してください。
(3)　フットクラッチペダルを踏み込んだとき、ペダルステーが無理の無いようにリミットスイッチを押し、スイッチが入っていることを確認してください。
(4)　調整が必要な際は、スイッチステーの取付ネジをゆるめて調整してください。
(5)　樹脂フロントカバーを元のように取付けてください。



■ブレーキスイッチの調整

リミットスイッチの調整不良・故障により、フットブレーキペダルを踏み込んでもブレーキランプがつかなかったり、フットブレーキペダルを踏まなくてもブレーキランプがつきっぱなしの場合に調整・交換をします。

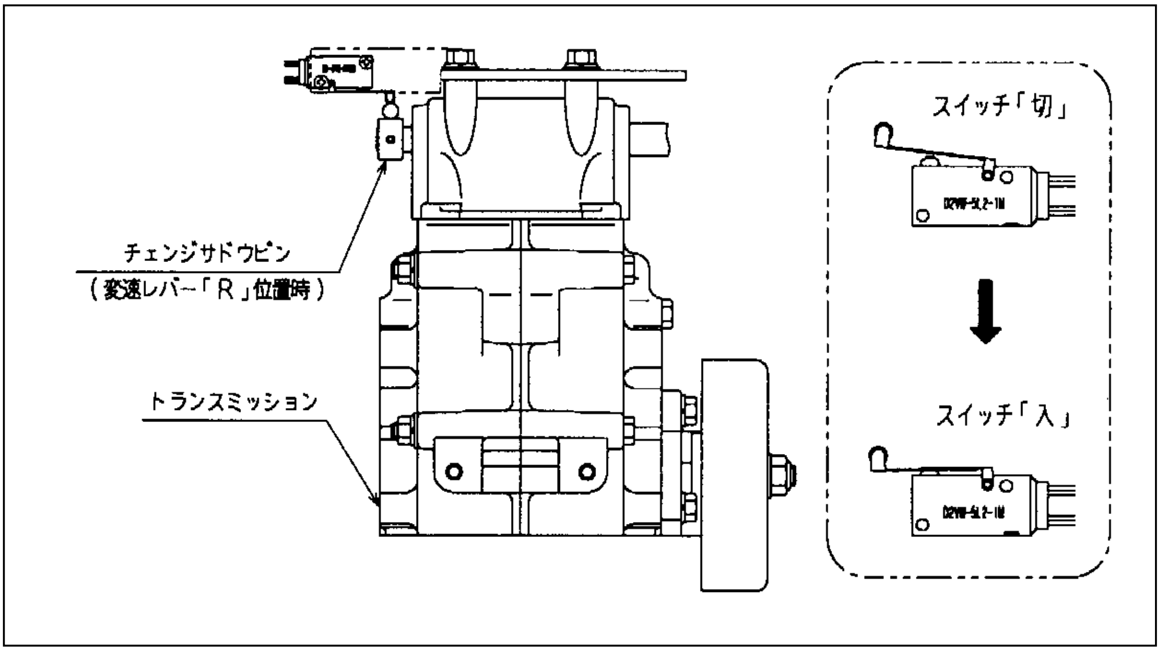
(1) 本機の樹脂フロントカバーを外します。
(2) フットブレーキペダル側リミットスイッチがペダルステーに押されて無理のないようにスイッチが入っていることを確認してください。
(3) フットブレーキペダルを踏み込んだとき、ペダルステーがリミットスイッチから離れ、スイッチが切れることを確認してください。
(4) 調整が必要な際は、スイッチステーの取付ネジをゆるめて調整してください。
(5) 樹脂フロントカバーを元のように取付けてください。



■バックブザースイッチの調整

リミットスイッチの調整不良・故障により、変速レバーを「R」位置にしてもバックブザーが鳴らなかったり、後退灯が点灯しなかった場合に調整・交換をします。

(1)　荷台をダンプ上昇させます。
(2)　必ず荷台下降防止をしてください。
(3)　変速レバーを「R」位置にした時、リミットスイッチがチェンジサドウピンに押されて無理のないようにスイッチが入っていることを確認してください。
(4)　調整が必要なときはスイッチ取付ネジをゆるめ、調整後ネジを締めつけてください。



■アクセルペダル・レバーの調整

●点検

(1)　アクセルレバーが「低」の位置（ストッパ①にあたって止まる位置）のとき、エンジン回転がアクセルペダルの動きに追従していることを確認してください。

(2)　アクセルペダルを踏まないで、アクセルレバーの動きにエンジン回転が追従し、アクセルレバーを自由な位置に止めたとき、それぞれのエンジン回転を維持できることを確認してください。

●調整

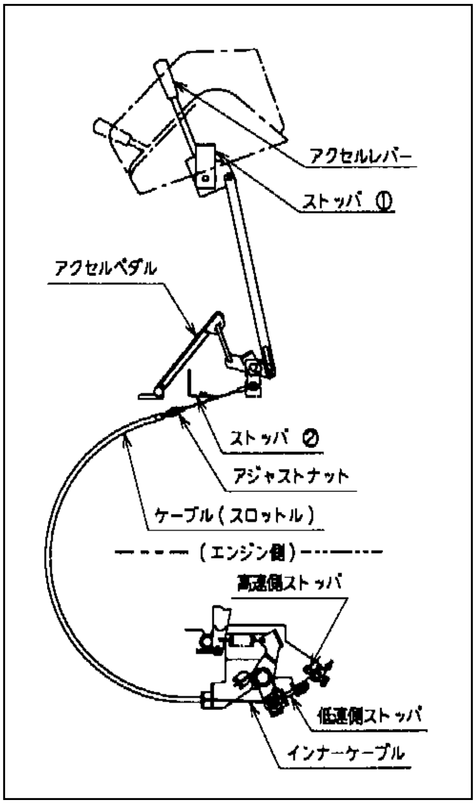
(1)　アクセルレバーを「低」の位置（ストッパ①にあたって止まる位置）にします。

(2)　エンジン側のケーブル（スロットル）のインナーケーブルセットボルト（ネジ）をゆるめ、インナーケーブルをプライヤー等で引っ張り遊びを無くします。

(3)　エンジンの速度調整レバーが低速側ストッパで止まった位置でセットボルトを締め付けます。

(4)　アクセルペダルを手で押さえエンジンの速度調整レバーが高速側ストッパにあたった位置でアクセルペダルがとまるようにストッパ②を調整します。

(5)　エンジン側のアウターケーブル先端がセット金具から外れないように軽くカシメられていることを確認してください。



重要

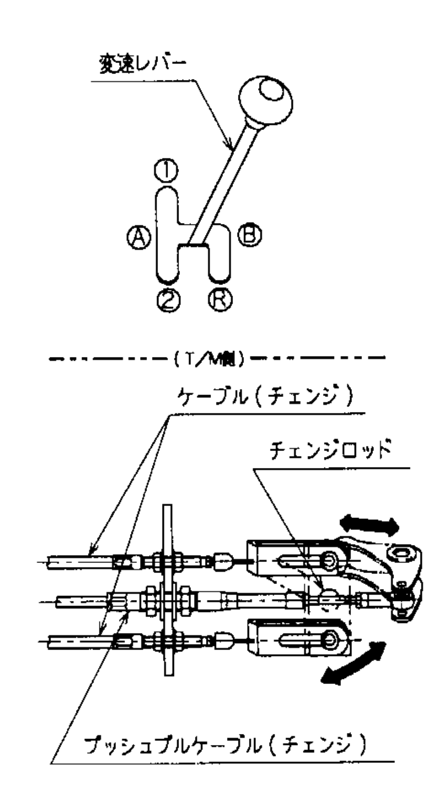
●アクセルペダルは必ずストッパ②で踏み込み量を制限してください。これを怠ると、エンジンの速度調整レバーの変形、インナーケーブルの抜け等が発生し、故障の原因となります。

●調整後は、アクセルペダル・レバーによりエンジン回転が追従することを確認してください。

■変速レバーの調整

●点検

変速レバーを操作した時、確実にギヤチェンジができる事を確認します。



重要 ●変速レバーは使用していると各部のヘタリやケーブルの伸びなどによりズレやガタを生じます。これを放っておくと走行中のギヤ抜け、さらにはトランスミッションの破損につながります。正しく調整してください。

●調整

(1)　変速レバーをⒶ⇄Ⓑに操作した時、チェンジロッドが回動し、ⒶおよびⒷに変速レバーが均等にふり分けられるようにケーブル（チェンジ）で調整します。

調整の際、変速レバーをⒶもしくはⒷに操作した時、ゆるみ側のケーブル（チェンジ）に少し遊びをつくります。

(2)　変速レバーがⒶ⇄Ⓑのガイド溝のほぼ中央になるようにプッシュプルケーブル（チェンジ）を調整します。

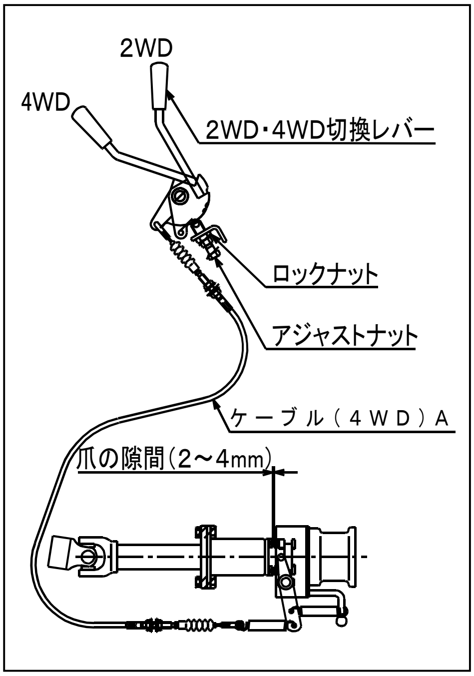
重要 ●両方のケーブル（チェンジ）を張り過ぎると、チェンジ操作が重くなり、スムーズに行えなくなる場合があります。

●機体が完全に止まった状態のとき、チェンジギヤの歯のかみ合いにより、スムーズに変速できないことがあります。無理に変速しようとすると、チェンジ操作部が破損する恐れがあります。チェンジ操作がスムーズに行えない場合は、フットクラッチペダルを少しだけ戻して、すぐ踏み込み、再度変速レバーを操作してください。

■２ＷＤ・４ＷＤ切換レバーの調整

●点検

切換レバーが２ＷＤの状態のとき、４ＷＤクラッチの爪の隙間が２～４mm あるか確認します。



●調整

(1) 切換レバーを２ＷＤ位置にし、車体を前後にまっすぐ移動させ、２ＷＤ状態にします。

(2) ケーブル（４ＷＤ）を調整し、４ＷＤクラッチの爪の隙間が２～４mm にします。

(3) 切換レバーを４ＷＤ位置にし、車体を前後にまっすぐ移動させ、４ＷＤ状態にします。

(4) この時、４ＷＤクラッチの爪の山と谷が接触している事を確認してください。

●２ＷＤ・４ＷＤ切換レバーの保持調整

切換レバーを２ＷＤ位置にした時、切換レバーが保持されない時はロックナットを緩め、アジャストナットを締め込みます。切換レバーが保持され、スムーズに動くことを確認し、ロックナットでロックします。

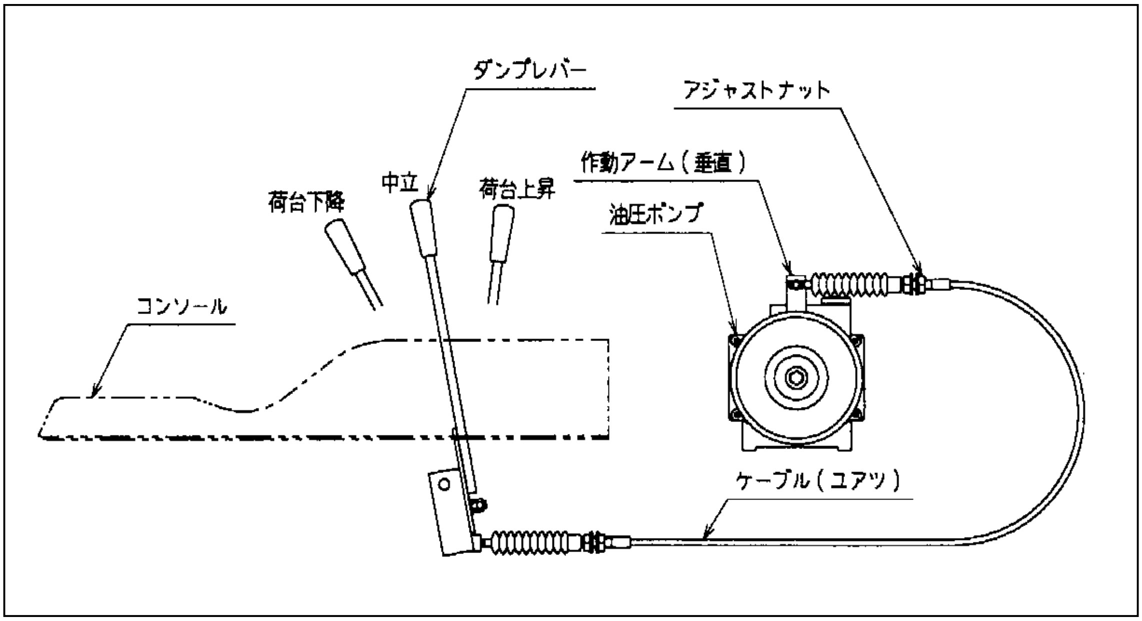
■ダンプレバーの調整

●点検

ダンプレバーを操作し、ガイド穴に接触していないことを確認してください。

●調整

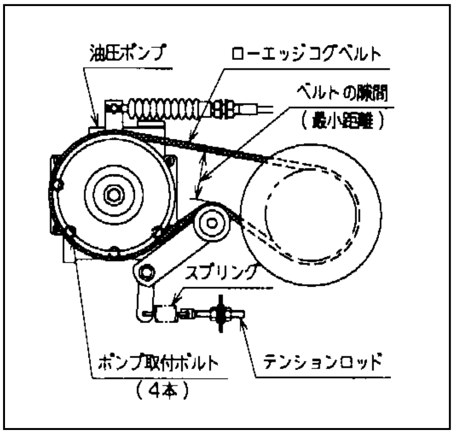
(1) ダンプレバーがコンソールの中立切り欠き穴中央にあるとき、油圧ポンプの作動アームが垂直になるようにケーブル（ユアツ）のアジャストナットで調整してください。
(2) ダンプレバーを操作したとき、カバーに接触しないことを確認してください。
(3) ケーブルのアジャストナットを確実に締め込んでください。



■油圧ポンプ駆動ベルトの張り調整

●点検

　スプリングの隙間が０．８～１mm になっているか確認します。



●調整

(1)　スプリングの隙間が０．８～１mm（伸び５～６mm）になるようにテンションロッドのナットを緩めて調整してください。
（参考；はがきの厚さは０．２mm です。）

(2)　テンションロッドのナットを締めてください。

重要　**●ベルトの隙間（最小距離）が２０mm 以下になると、ベルトの振れなどにより干渉し、寿命が著しく低下します。**

●２０mm 以下になった場合は次の手順でプーリ間を広げるか、ベルトの交換をしてください。

(1)　テンションロッドのナットを緩めます。

(2)　ケーブル（ユアツ）のアジャストナットを緩めます。（７２ページ参照）

(3)　油圧ポンプ取付ボルトを緩めプーリ間を広げます。

(4)　プーリベルトラインを合わせ、（ラインずれ１mm 以下）油圧ポンプ取付ボルトを締め付けます。

(5)　スプリングの隙間を０．８～１mm（伸び５～６mm）になるようテンションロッドのナットで調整します。

(6)　テンションロッドのナットを締め込みます。

(7)　７２ページ「ダンプレバーの調整」を行います。

重要　**●油圧ポンプを移動させた場合は、作動アーム（７２ページの図参照）がスムーズに動くことを確認してください。**

■走行クラッチレバーの調整

●点検

スプリングの隙間が０．８～１．１mmになっているか確認します。

●調整

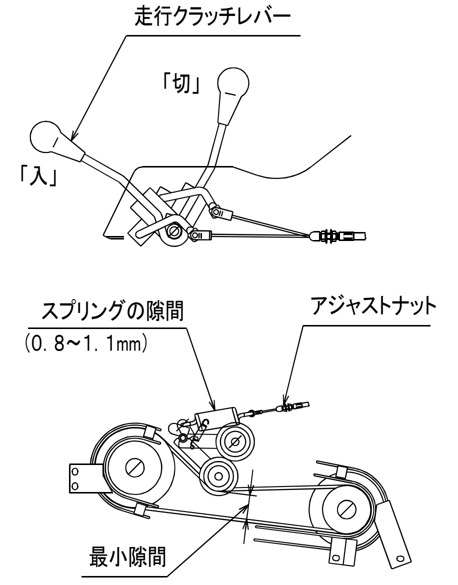
調整は高速側・低速側とも同様ですので、片側の調整についてのみ記載します。

(1)　走行クラッチレバーを図のように「入」の位置に入れます。

(2)　スプリングの隙間が０．８～１．１mm（スプリングの伸び６～７mm）になるようにケーブルのアジャストナットで調整してください。

(3)　調整後は必ずアジャストナットを締め込んでください。

(4)　エンジン側およびミッション側ベルトストッパをベルトとの隙間が３～４mmになるようにします。



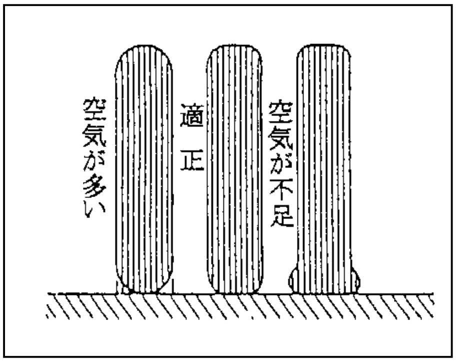
ガソリン車　：ローエッジコグベルトSC57−HPⅣ
ディーゼル車：ローエッジコグベルトSC54−HPⅣ

重要　●走行クラッチレバーおよびベルトストッパの調整が悪いと、ベルトのツキ回りやスリップ等が起き、ベルトの磨耗・異音原因となります。
●ベルトの最小隙間が３０㎜以下になるとベルト自体の振れにより腹の部分が干渉して磨耗の原因となります。３０㎜以上確保できないときは、新ベルトに交換してください。

⚠警告　●点検・調整はエンジンを止めて行ってください。これを怠ると、衣服の巻き込みなどによる傷害事故の原因となります。
●エンジン停止後すぐに点検・調整を行うと、マフラーなどの高温部による火傷の原因となります。高温部が冷えてから行ってください。

■タイヤ空気圧の調整

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。外観から判断する目安は次の通りです。

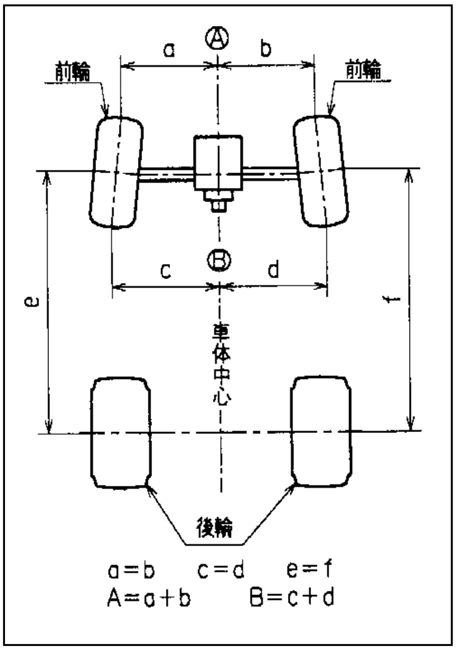


●標準空気圧

	タイヤサイズ	空気圧 kpa(kgf/cm^2)
前輪	AG22×8.50-12	200（2.0）
後輪	AG22×10.00-10	

■トーインの調整

トーインの調整が悪いと、タイヤが偏磨耗するばかりでなく、ハンドルを取られたり、直進性が悪くなります。調整はお買い上げの販売店、またはサービス工場で行ってください。

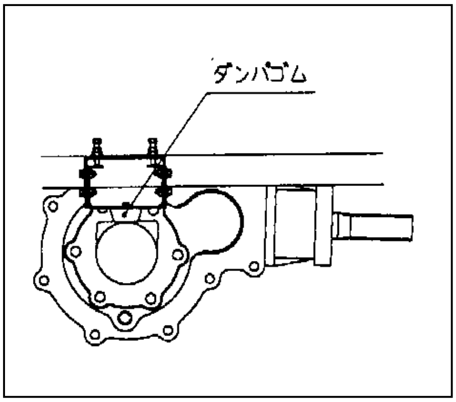


●点検

車体をまっすぐにしたとき前輪の前幅Ⓐと後幅Ⓑを測り、Ⓑ－Ⓐ＝１～６mmになっているかを調べます。

■前輪スイングの点検（ダンパゴムの点検）

ダンパゴムの調整が悪いと、キャビン（運転席）が傾き、安全運転の妨げとなります。キャビン（運転席）の傾きが感じられたら点検を行ってください。



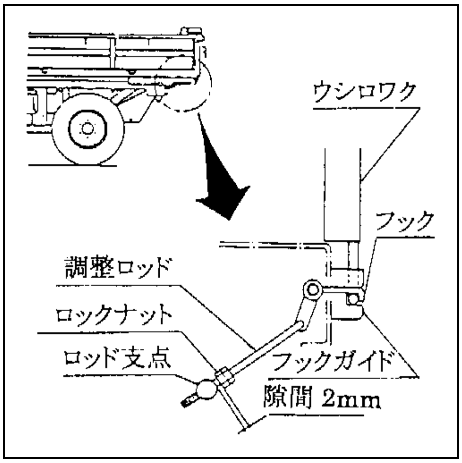
●点検

前輪ホイルパイプを支えているダンパゴムが　劣化・変形していないか確認します。劣化・変形している場合は新品と交換が必要です。
また、左右のダンパゴムがホイルパイプと接触しているか確認します。どちらか一方でも離れている場合は調整が必要となります。交換・調整はお買い上げの販売店、またはサービス工場で行ってください。

■後枠開閉フックの調整

●点検

荷台が３０°くらいダンプさせたとき、後枠がフックから外れ、荷台を下まで降ろしたとき後枠がフックで固定されることを確認します。



●調整

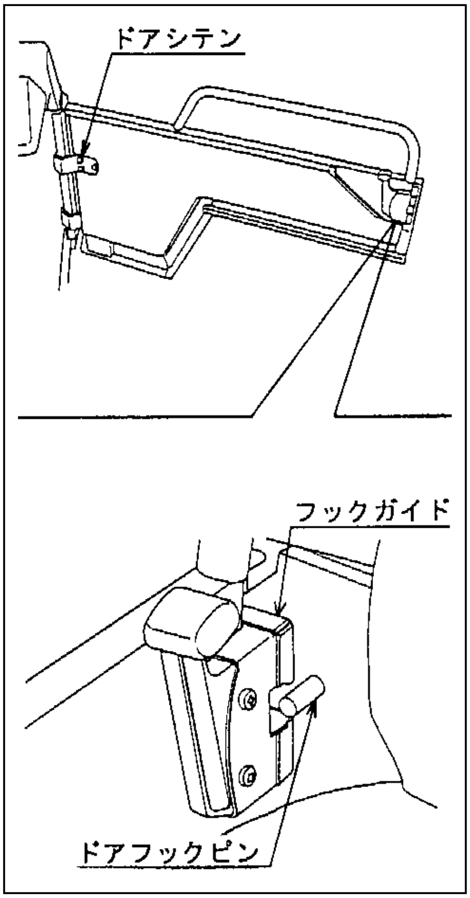
(1)　荷台を下まで降ろします。
(2)　ロッド支点と調整ロッドのロックナットの隙間を２mm に調整します。
(3)　荷台を上下させ、フックがフックガイドなどに干渉しないことを確認します。

重要 ●調整が悪いと後枠が開かなかったり、振動し異音が起こることがあります。また、フックがフックガイドなどに干渉し、フックや調整ロッドの変形につながります。

■ドアの調整

●点検

ドアの開閉がスムーズにでき、閉めたとき、ドアが確実にロックできているか確認します。



●調整

(1)　ドアシテンの取付ボルトを緩めます。

(2)　ドアフックピンとドアのフックガイドの高さが同じになるようにドアシテンの取付ボルトを締め込みます。

※取付ボルトの締付トルクが弱いと、ドアが自重で下がってくる場合があります。調整後はしっかりとボルトを締め込んでください。

(3)　調整後、ドアの開閉の確認をしてください。

重要 ●調整が正しくできていないとドアが振動したり、ロックが外れ、自然にドアが開く恐れがあります。

手入れと格納

■日常の格納

日常の格納および短期間の格納は、次の要領で行ってください。

(1) 車体はきれいに清掃しておきましょう。特に圃場での作業（ダンプ作業）、悪路走行後は、きれいに洗車してください。
(2) タンク内防錆のため、燃料は満タンにしてください。
(3) 荷台は必ず降ろしてください。
(4) 格納はできる限り屋内にしてください。
(5) 駐車ブレーキをかけてください。
(6) 厳寒時はバッテリをはずし、暖かい室内などに保管すると始動時に効果があります。

重要 **●洗車の際は、エンジン・クラッチ伝導部・樹脂部品・電装品および、マーク貼付部などには高圧水をかけないでください。高圧水をかけると、故障の原因となったりマークのはがれ、部品の変形を起こしたりします。**

■長期格納

長い間使用しない場合は、きれいに清掃し、次の要領で格納してください。

(1) 車体はきれいに清掃しておきましょう。
(2) 不具合箇所は整備してください。
(3) エンジンオイルを新しいオイルと交換し、５分程エンジンをアイドリング回転にて運転し、各部にオイルをゆきわたらせます。
各エンジン特有の項目もありますので「エンジン取扱説明書」をご参照ください。
(4) 各部の給油を必ず行ってください。
(5) 各部のボルト・ナットの緩みを点検し、緩んでいれば締めてください。
(6) 荷台は降ろしてください。（ダンプさせないでください。）
(7) 格納場所は、周囲に紙など燃えやすいものがない、雨のかからない乾燥した場所を選んでください。

⚠警告 ●作業が終了して、シートカバー等を機械にかけるときは、過熱部分が完全に冷えてから行ってください。熱いうちにカバー類をかけると、火災の原因になり大変危険です。

(8) 駐車ブレーキはかけないで後輪に車止めをしておいてください。

(9) バッテリは、はずして補充電を行い、液面を正しく調整して日光の当たらない乾燥した場所に保管してください。どうしても取り付けたまま保管しなければならないときは、必ずアース側（㊀側）をはずしておいてください。

重要 ●バッテリをはずさないときは、最低限バッテリの㊀端子をはずしてください。ねずみが配線をかじり、ショートして火災が発生することがあります。
●キースイッチのキーは必ず抜いておいてください。

■長期格納後の使用

長期格納後の再使用は、特に次の内容に注意してください。

●始業点検を確実に行ってください。
●エンジンの寿命・性能を保つため、エンジン始動後はアイドリング回転で５分程、運転してください。

不調時の対応のしかた

■エンジン関係

故障状況	原因	処理	参照ページ
キースイッチを回してもセルモータが回らない	・バッテリが弱い	・充電または交換	５８
	・配線の断線または接続不良	・修理または交換	—
	・ヒューズ切れ	・交換する	５７
	・キースイッチの故障	・交換する	—
	・セルモータの故障	・サービス工場で修理または交換	—
	・リミットスイッチの作動不良または故障	・調整または交換	６６
セルモータの回転があがらない	・バッテリが弱い	・充電または交換	５８
	・配線の断線または接続不良	・修理または交換	—
セルモータは回るがエンジンがかからない	・燃料が供給されない	・燃料コックを開ける	—
	・燃料フィルタのつまり	・フィルタの清掃または交換	５１
	・燃料ポンプの作動不良	・配線の修理またはポンプ交換	—
	・点火プラグの不良	・清掃または交換	※
	・気化器のつまり	・サービス工場で清掃または交換	※
	・その他エンジン本体の不具合	・サービス工場で修理	※
エンジン回転が不規則である	・燃料フィルタのつまり	・フィルタの清掃または交換	５１
	・ホース系の燃料もれまたはエアー混入	・クランプの締付けまたはホース交換	—
	・燃料ポンプの作動不良	・配線の修理またはポンプ交換	—

不調時の対応のしかた

故障状況	原因	処理	参照ページ
エンジン回転が不規則である	・点火プラグの不良	・清掃または交換	※
	・気化器のつまり	・サービス工場で修理または交換	※
エンジンを低速にすると停止する	・点火プラグの不良	・清掃または交換	※
	・気化器のつまりおよび調整不良	・サービス工場で修理または交換	※
	・スロットル調整不良	・スロットル調整	６９
運転中に突然、エンジンが停止した	・燃料不足	・燃料補給	５１
	・エンジンオイル不足	・エンジンオイル補給	５２
	・オイル不足または潤滑不良によるエンジン焼付	・サービス工場に依頼	—
マフラから異常な煙がでる	・エアクリーナのつまり	・エレメントの清掃または交換	—
	・エンジンオイル量が多い	・点検し適正量にする	５２
	・燃料供給量不良	・サービス工場で修正	—
	・燃料がよくない	・正規の燃料に入れ換える	５１
エンジン出力不足	・積載量が多すぎる	・積載量を減らす	４５
	・気化器の調整不良	・サービス工場で調整	※
	・冷却空気取入れ口やシリンダフィン部にゴミが付いている	・清掃する	※
	・点火プラグの不良	・交換する	※
	・エンジンオイル量が多すぎるか、少なすぎる	・点検し適正量にする	５２
	・エアクリーナのつまり	・エレメントの清掃または交換	—
	・エンジンオイルが汚れている	・交換する	５２
	・その他エンジン本体の不具合	・サービス工場で修理	※

■クラッチ関係

故　障　状　況	原　　　因	処　　　理	参照ページ
クラッチがすべる	・ペダルの調整不良	・ペダルの遊び、踏みしろの調整	６０ ６１
	・クラッチ・ライニングの磨耗・焼損	・サービス工場で修理	—
クラッチが切れない	・ペダルの調整不良	・ペダルの遊び、踏みしろの調整	６０ ６１
	・クラッチ・ライニングの錆付き	・サービス工場で修理	—

■ブレーキ関係

故　障　状　況	原　　　因	処　　　理	参照ページ
ブレーキの効きが悪いまたは片効きである	・ブレーキペダルの遊びが大きすぎる	・遊び量を調整する	６２
	・ライニングの磨耗・焼付	・サービス工場でライニングの交換	—
フットブレーキペダルの戻りが悪い	・ブレーキ戻しスプリングの損傷	・スプリング交換	—
	・各摺動部のグリス切れ	・錆落としグリス・アップ	—
	・ケーブルの調整不良	・フットブレーキペダルの調整	６２

■チェンジ・伝動関係

故　障　状　況	原　　　因	処　　　理	参照ページ
変速レバーが各変速位置に入らない	・変速レバーがズレている	・変速レバーの調整	７０
	・シフトレバーの変形	・サービス工場で交換	—

故　障　状　況	原　　　　因	処　　　　理	参照ページ
走行クラッチレバーを「入」にしても停止しない	・走行ベルトのスリップ	・走行クラッチレバーの調整	７４
	・走行ベルトの磨耗	・ベルトの交換	７４
	・駐車ブレーキのロック	・ブレーキ解除または調整	３２
走行クラッチレバーを「切」にしても停止しない	・走行ベルトのつき回り	・走行クラッチレバーの調整 ・ベルトストッパの調整	７４
	・ブレーキシューの摩耗	・ブレーキ調整 ・サービス工場で交換	６３ ６４

■**操行関係**

故　障　状　況	原　　　　因	処　　　　理	参照ページ
ハンドルが重い ハンドルがとられる	・トーインが正しくない	・サービス工場で調整	７５
	・タイヤ空気圧が不揃い	・左右共に規定空気圧にする	７５
	・各タイロッドにガタがある	・増し締めまたはサービス工場で修理・交換	—
	・タイヤがパンクまたは磨耗している	・タイヤの交換	—
	・油圧ポンプ作動油不足	・作動油の補給	５４
	・油圧ホースまたはステアリングＧ．ＢＯＸの目づまり	・清掃または交換	—
	・ダンプ操作をしている	・ダンプ操作をやめる	—
ハンドルの遊びが多い	・ハンドルシャフトの磨耗	・サービス工場で修理または交換	—
	・各タイロッドにガタがある	・増し締めまたはサービス工場で修理・交換	—

■油圧関係

故障状況	原因	処理	参照ページ
ダンプレバーを操作しても動かない	・油圧駆動ベルトのスリップ	・ベルトの張り調整または交換	７３
	・積み過ぎ	・積載量を減らす	４５
能力がでない	・作動油の減少・質の低下	・作動油の補給または交換	５４
	・シリンダ内にエアー混入	・エアー抜き	—
	・油圧ポンプエアーブリーザーの目づまり	・清掃する	—
油もれがする	・配管結合部の緩み	・増し締め	—
	・シールの劣化・磨耗	・交換する	—
	・油圧ホースの亀裂	・交換する	—

■電装関係

故障状況	原因	処理	参照ページ
バッテリが充電されない	・配線の断線または接続不良	・修理または交換	—
	・ヒューズ切れ	・交換する	５７
	・レギュレータ不良	・交換する	—
	・エンジン発電不良	・サービス工場で修理または部品交換	※
	・バッテリの機能不良	・端子の緩み、腐蝕、電解液の不足などを修正またはバッテリの交換	５８
ランプが暗い	・バッテリの性能低下	・充電する	５８
	・エンジン発電不良	・サービス工場で修理	※
	・結線、接触不良	・アースおよびターミナルの点検清掃および増し締め	—

故　障　状　況	原　　　因	処　　　理	参照ページ
ランプが点灯しない	・電球の断線	・電球交換	—
	・ヒューズ切れ	・配線をチェックしヒューズを交換する	５７
	・接触不良	・アースおよびターミナルの点検清掃	—
ブレーキランプが消えない	・リミットスイッチの作動不良または故障	・調整または交換	６７
	・ブレーキの調整不良	・調整する	６２ ６３
ホーンが鳴らない	・コンビネーションスイッチの故障	・交換する	２８
	・配線不良	・修理する	—
	・ホーンの損傷	・交換する	—
ウィンカが点滅しない	・電球切れ	・電球交換	—
	・フラッシャ・ユニットの故障	・交換する	—
	・接触不良	・アースおよびターミナルの点検清掃	—
バックブザーが鳴らない	・リミットスイッチの作動不良または故障	・調整または交換	６８
	・配線不良	・修理する	—
	・バックブザーの損傷	・交換する	—
後退灯が点灯しない	・電球切れ	・電球交換	—
	・接触不良	・アースおよびターミナルの点検清掃	—
アワーメータが動かない	・配線不良	・修理する	—

※印のエンジン部につきましては「エンジン取扱説明書」をご参照ください。

農作業を安全におこなうために

農林水産省より、安全に農作業に従事できるように、農業機械を使用するときの注意事項が「農作業安全基準」として定められています。ここに、ホイル型運搬車を使用される方のために、特に重要な項目を「農作業安全基準」より抜粋しております。熟読の上、事故のない楽しい農作業のためにお役立てください。

一般共通事項

(1) 適用範囲

一般共通事項は、農業機械を使用して行う作業に従事する者が農作業の安全を確保するため注意すべき事項を示すものである。

(2) 就業条件

①安全作業の心得
農業機械を使用して行う作業（以下、「機械作業」という）に従事する者は機械の操作の熟練に努め、自己の安全を図ると共に、補助作業者及び他人に危害を及ぼさないように、機械を正しく運転することに努めること。

②就業者の条件
次に該当する者は、危険を伴う機械作業に従事しないこと。
●精神病者
●酒気をおびた者
●若年者
●未熟練者
●過労・病気・薬物の影響その他の理由により正常な運転操作ができない者。

激しい作業が続く場合には、特に健康に留意し、適当な休憩と睡眠をとること。
妊娠中の者は、振動を伴う機械作業に従事しないこと。

③特殊温湿度環境下の安全
暑熱、寒冷及び高湿の環境における作業に際しては、安全を確保するため作業時間及び方法等を十分に検討すること。

(3) 子供に対する安全配慮

機械には、子供を同乗させないこと。また、機械には子供を近寄らせないよう注意すること。

(4) 安全のための機械管理

①日常の点検整備
農業機械は、使用の前後に日常の点検整備を行い、常に機械を安全な状態に保つこと。

②防護装置の点検
- ●機械作業に従事する者は、機械の操縦装置、制動装置、防護装置等危険防止のために必要な装置を点検整備して常に正常な機能が発揮できるようにしておくこと。
- ●機械に取り付けられた防護装置等を機械の点検整備または修理等のために取り外した場合は、必ず復元しておくこと。

③掲げ装置の落下の防止
作業機を上げた位置で点検調整等を行う場合には、ロック装置のあるものについて、必ずこれを使用し、かつ、ロック装置の有無にかかわらず作業機について落下防止の措置を講じること。

④整備工具の管理
点検整備に必要な工具類を適正に管理し、正しく利用すること。

(5) 火災・爆発の防止

①引火・爆発物の取り扱い
引火または、爆発の恐れのある物質の貯蔵・補給等にあたってはその取り扱いを適正にすること。特に火気を厳禁すること。

②火災予防の措置
火災の恐れがある作業場所には、消火器を備え、喫煙場所を決める等火災予防の措置を講じること。

(6) 服装および保護具の使用

次の農作業に際しては、適正な服装および保護具を用い、危険のないよう作業に従事すること。

①頭の傷害防止の措置
機械からの墜落及び、落下物の恐れの大きい場合、交通頻繁な道路での運行の場合等では、頭部保護のために適正な保護具を用いること。

②巻き込まれによる傷害防止の措置
原動機若しくは動力伝動装置のある作業機または駆動する作業機を使用する場合には、衣服の一部、頭髪、手拭き等が巻き込まれないように適正な帽子および、作業衣等を使用すること。

③足の傷害及びスリップ防止の措置
　機械作業において、作業機等の落下、土礫の飛散、踏付け、踏抜き及びスリップ等の恐れのある場合は、これらの事故を防止するために適正な履物を用いること。

④粉じん及び有害ガスに対する措置
　多量の粉じん及び有害ガスが発生する作業にあっては、粉じん及び有害ガスによる危害防止のための適正な保護具を使用すること。

⑤農薬に対する措置
　防除作業においては、呼吸器、眼、皮膚等からの農薬による障害防止のために適正な保護具（保護衣を含む）を使用すること。

⑥激しい騒音に対する措置
　激しい騒音の伴う作業にあっては、耳を保護するための適正な保護具を使用すること。

⑦保護具の取り扱い
　安全保護具を常に正常な機能を有するように点検し、正しく使用すること。

移動機械共通事項

(1) 適用範囲

移動機械共通事項は、地上を移動しながら作業するトラクターその他の移動機械を使用して行う作業に従事する者が注意すべき事項を示すものである。

(2) 作業前の注意事項

①機械の点検整備
- ●機械の点検整備を十分行い、その使用にあたっては、常に安全を確保すること。
- ●機械の点検整備、手入れ及び作業機の装着等は、交通の危険がなく平坦である等、安全な場所でかつ安全な方法で確実に行うこと。特に、屋内で内燃機関を運転しながら点検整備等を行う場合は、換気に注意すること。

②防護装置の保全
- ●機械に取り付けられた防護装置は、常に有効に作用する状態に保っておくこと。
- ●機械の点検整備等のために防護装置を取り外した場合は、必ず復元し、その機能を十分に発揮できるようにしておくこと。

③悪条件下における作業

土地条件、気象条件等により機械作業に対する条件がよくない場合の作業については、実施の判断、作業方法及び装備の選択等に注意すること。

(3) 作業中の注意事項

①乗車等の禁止
- ●機械作業に際して機械には、指定の箇所以外に他人を乗せないこと。また、指定箇所においても定員以上に乗車させないこと。
- ●非常の場合を除いて、運行または作業中の機械に飛び乗り、またはこれから飛び降りないこと。
- ●機械作業中は、作業関係者以外の者を機械に近寄らせないこと。

②前方及び後方の安全確認
- ●運転中または作業中は、常に機械の周囲に注意し、安全を確認すること。特に、発進時に注意すること。

③転倒落下の防止
●傾斜地における機械作業においては、機械の転倒を防ぐために速度、旋回、作業方法等に注意して運転操作を行うこと。
●圃場への出入り、溝また畦畔の横断、軟弱地の通過等に際しては、機械の転落を防ぐために、特に注意すること。
●機械の積み降ろしに際しては、機械の転倒及び落下を防ぐための適切な措置を講じ、十分注意して行うこと。

④傷害の防止
●動力伝導装置・回転部等の危険な部分には、作業中接触しないように注意すること。

⑤道路走行の安全
●道路走行にあたっては、関係法規を守り、安全に運転すること。
●道路走行にあたっては、他の自動車走行の妨げとならないように留意すること。
●悪条件の道路での高速運転の禁止
凹凸のはげしい道路、曲折のはげしい道路等においては、高速で運転しないこと。
●坂道時は、必ずエンジンブレーキを用いること。また、走行クラッチを使用しないこと。登坂時における発進では、前輪の浮上りに注意すること。

⑥夜間における安全
夜間作業においては、とくに安全に注意し、的確な照明を行うこと。
夜間給油を行う場合は、裸火等を使用せず、安全な照明のもとで安全かつ確実に給油すること。

⑦作業中の点検調整等における安全措置
機械の点検調整は、必ず原動機を止め、安全な状態で行うこと。
休けい等で機械を離れる場合は、機械を安定した場所におき、作業機を下し、かつ、安全な停止状態を保つように注意すること。やむを得ず傾斜地に機械を置く場合は、さらに車止めを施して、自然発車等の危険が生じないように注意すること。

(4) 終業後の注意事項

①終業後の点検整備
作業終業後は、必ず次の作業のため機械の点検整備を行うこと。

②機械の安全管理
作業終了後は、作業機をはずし、または降ろし、機械を安定した場所に置き、かつ、安全な停止状態を保つように注意すること。
また、危険と思われる機械は、格納庫に保管するかおおいをかけるなどして安全な状態におくこと。

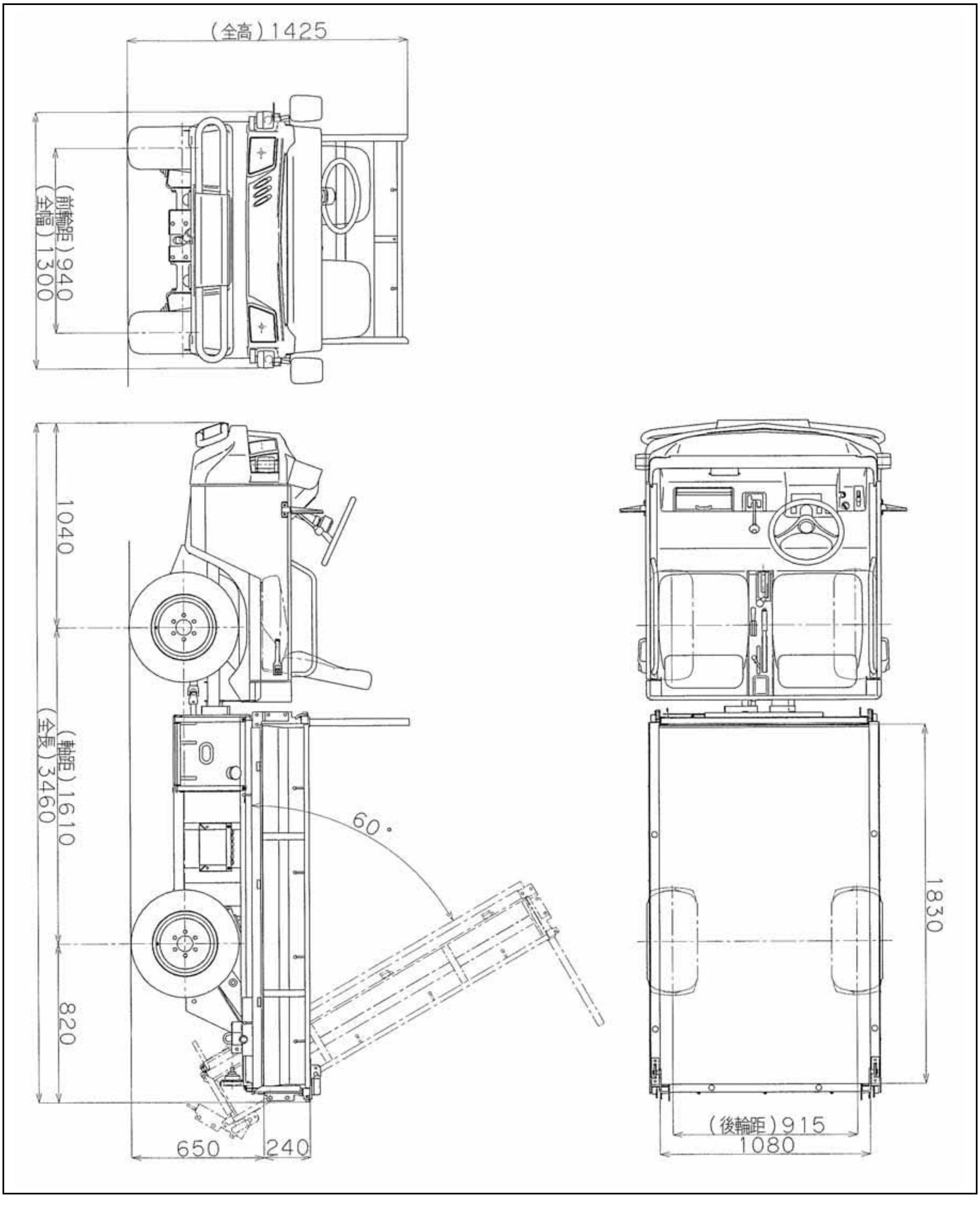
サービス資料

主要諸元

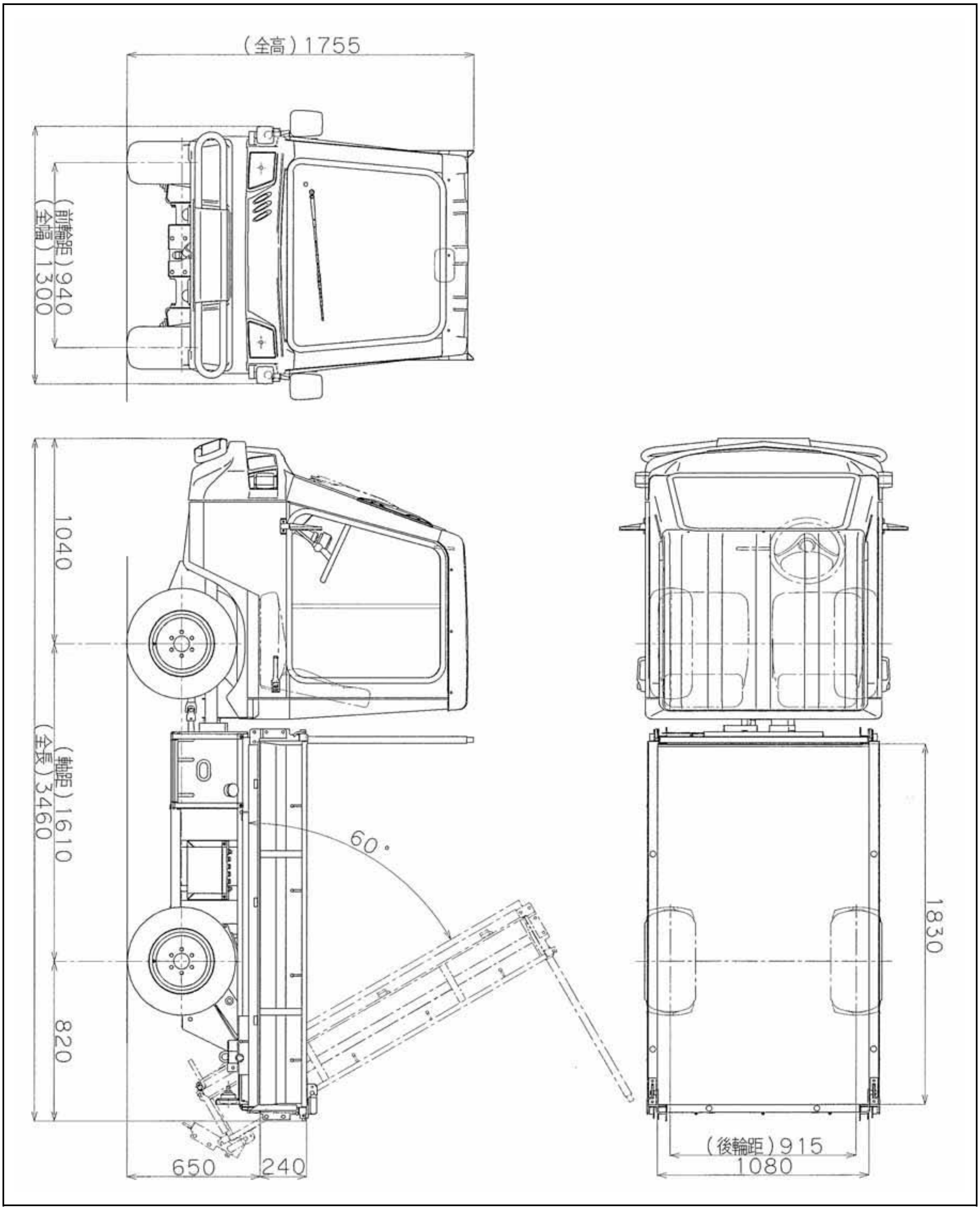
<table>
<tr><td colspan="5">名称</td><td colspan="2">ホイル型運搬車（小型特殊自動車「ホイール・キャリア」）</td></tr>
<tr><td colspan="5">型式</td><td>ＳＬ６２０Ｂ</td><td>ＳＬ６２０ＣＢ</td></tr>
<tr><td colspan="5">最大作業能力（kg）</td><td colspan="2">６００</td></tr>
<tr><td colspan="5">乗車定員（人）</td><td colspan="2">２</td></tr>
<tr><td rowspan="4">車体</td><td colspan="4">質量（kg）</td><td>７２０</td><td>７９０</td></tr>
<tr><td colspan="4">全長（mm）</td><td colspan="2">３４６０</td></tr>
<tr><td colspan="4">全幅（mm）</td><td colspan="2">１３００</td></tr>
<tr><td colspan="4">全高（mm）</td><td>１４２５</td><td>１７５５</td></tr>
<tr><td colspan="5">荷台内寸（長×幅×枠高）（mm）</td><td colspan="2">１８３０×１０８０×２４０</td></tr>
<tr><td colspan="5">荷台面地上高（mm）</td><td colspan="2">６５０</td></tr>
<tr><td rowspan="16">走行部</td><td colspan="4">走行形式</td><td colspan="2">四輪駆動（パートタイム）</td></tr>
<tr><td colspan="4">操向形式</td><td colspan="2">前輪操舵（アッカーマンジャント）</td></tr>
<tr><td colspan="4">懸架形式</td><td colspan="2">センタオシレーション&トレーリングアーム式前輪サス</td></tr>
<tr><td colspan="4">ブレーキ形式</td><td colspan="2">内拡式（後二輪φ１８０&センターブレーキφ１１０）</td></tr>
<tr><td colspan="3" rowspan="2">タイヤサイズ</td><td>前輪</td><td colspan="2">ＡＧ２２×８．５０－１２－４ＰＲ（ターフ）</td></tr>
<tr><td>後輪</td><td colspan="2">ＡＧ２２×１０．００－１０－４ＰＲ（ラグ）</td></tr>
<tr><td colspan="3" rowspan="2">トレッド（mm）</td><td>前輪</td><td colspan="2">９４０</td></tr>
<tr><td>後輪</td><td colspan="2">９１５</td></tr>
<tr><td colspan="4">ホイールベース（mm）</td><td colspan="2">１６１０</td></tr>
<tr><td colspan="4">変速段数</td><td colspan="2">前進－４速，後進－２速</td></tr>
<tr><td rowspan="6">走行速（km/h）</td><td rowspan="4">前進</td><td rowspan="2">１速</td><td>高</td><td colspan="2">８．６</td></tr>
<tr><td>低</td><td colspan="2">３．６</td></tr>
<tr><td rowspan="2">２速</td><td>高</td><td colspan="2">１４．９</td></tr>
<tr><td>低</td><td colspan="2">６．１</td></tr>
<tr><td rowspan="2">後進</td><td rowspan="2">１速</td><td>高</td><td colspan="2">９．６</td></tr>
<tr><td>低</td><td colspan="2">４．０</td></tr>
<tr><td colspan="5">最低地上高（mm）</td><td colspan="2">１７０</td></tr>
<tr><td colspan="5">最小回転半径（m）</td><td colspan="2">３．３</td></tr>
<tr><td rowspan="7">エンジン</td><td colspan="4">種類・型式</td><td colspan="2">空冷４サイクル傾斜型ＯＨＶガソリン・カワサキＦＥ２９０Ｇ</td></tr>
<tr><td colspan="4">定格（最大）出力（kW{PS}/min^{-1}）</td><td colspan="2">５．１{７．０}／１８００（６．９{９．４}／２０００）</td></tr>
<tr><td colspan="4">最大トルク（N･m{kgf･m}/min^{-1}）</td><td colspan="2">３７．２{３．８}／１２５０</td></tr>
<tr><td colspan="4">総排気量（cc）</td><td colspan="2">２８６</td></tr>
<tr><td colspan="4">燃料（タンク容量）（Ｌ）</td><td colspan="2">自動車用無鉛ガソリン（約１６）</td></tr>
<tr><td colspan="4">始動装置</td><td colspan="2">セルスタータ</td></tr>
<tr><td colspan="4">発電装置</td><td colspan="2">１２Ｖ１３Ａ・レギュレーター</td></tr>
<tr><td rowspan="4">作業</td><td colspan="4">名称</td><td colspan="2">油圧ダンプ</td></tr>
<tr><td colspan="4">最大能力（kg）</td><td colspan="2">６００</td></tr>
<tr><td colspan="4">装置仕様</td><td colspan="2">複動油圧シリンダ</td></tr>
<tr><td colspan="4">ダンプ角度（度）</td><td colspan="2">６０</td></tr>
<tr><td colspan="5">登録型式</td><td colspan="2">アテックス　ＳＬ６４</td></tr>
<tr><td colspan="5">型式認定番号</td><td colspan="2">特２０２６</td></tr>
</table>

名称				ホイル型運搬車（小型特殊自動車「ホイール・キャリア」）	
型式				ＳＬ６２０ＪＢ	ＳＬ６２０ＪＣＢ
最大作業能力（kg）				６００	
乗車定員（人）				２	
車体	質量（kg）			７９０	８６０
車体	全長（㎜）			３４６０	
車体	全幅（㎜）			１３００	
車体	全高（㎜）			１４２５	１７５５
荷台内寸（長×幅×枠高）（㎜）				１８３０×１０８０×２４０	
荷台面地上高（㎜）				６５０	
走行部	走行形式			四輪駆動（パートタイム）	
走行部	操向形式			前輪操舵（アッカーマンジャント）	
走行部	懸架形式			センタオシレーション&トレーリングアーム式前輪サス	
走行部	ブレーキ形式			内拡式（後二輪φ１８０&センターブレーキφ１１０）	
走行部	タイヤサイズ	前輪		ＡＧ２２×８．５０－１２－４ＰＲ（ターフ）	
走行部	タイヤサイズ	後輪		ＡＧ２２×１０．００－１０－４ＰＲ（ラグ）	
走行部	トレッド（㎜）	前輪		９４０	
走行部	トレッド（㎜）	後輪		９１５	
走行部	ホイールベース（㎜）			１６１０	
走行部	変速段数			前進－４速，後進－２速	
走行部	走行速（km/h）	前進	１速 高	８．６	
走行部	走行速（km/h）	前進	１速 低	３．６	
走行部	走行速（km/h）	前進	２速 高	１４．９	
走行部	走行速（km/h）	前進	２速 低	６．１	
走行部	走行速（km/h）	後進	１速 高	９．６	
走行部	走行速（km/h）	後進	１速 低	４．０	
最低地上高（㎜）				１７０	
最小回転半径（m）				３．３	
エンジン	種類・型式			立型水冷２気筒４サイクルディーゼル・クボタＺ４８２－ＥＢ	
エンジン	最大出力（kW{PS}/min^{-1}）			８．２{１１．１}／３０００	
エンジン	最大トルク（N·m{kgf·m}/min^{-1}）			２１．６{２．２}／２２００	
エンジン	総排気量（cc）			４７９	
エンジン	燃料（タンク容量）（Ｌ）			ディーゼル軽油（約１６）	
エンジン	始動装置			セルスタータ	
エンジン	発電装置			１２Ｖ４０Ａ・レギュレーター	
作業	名称			油圧ダンプ	
作業	最大能力（kg）			６００	
作業	装置仕様			複動油圧シリンダ	
作業	ダンプ角度（度）			６０	
登録型式				アテックス　ＳＬ６６	
型式認定番号				特２０２８	

外観図　（ＳＬ６２０Ｂ，ＳＬ６２０ＪＢ）



（ＳＬ６２０ＣＢ，ＳＬ６２０ＪＣＢ）



主な消耗部品

消耗部品のご注文は、部品番号をお確かめの上、お買い上げいただきました販売店にご注文ください。

部　品　名　称	使　用　箇　所	部　品　番　号
ベルト（ＶＣ０５７－４）	走行伝動部（ガソリン車）	０４５３−５２１−０１２−０
ベルト（ＶＣ０５４－４）	走行伝動部（ディーゼル車）	０４５３−５２２−０１２−０
ベルト（ＶＡ０３６－２）	油圧伝動部	０４５３−５２６−０１１−１Ａ
バッテリ３４Ａ（Ｇ）	バッテリ（ガソリン車）	０４５３−４５５−０１１−１Ａ
バッテリ４６Ｂ（Ｙ）	バッテリ（ディーゼル車）	０４５３−４５１−０１１−０
ブレーキシュー（Ｌ６１０）	後輪タイヤブレーキ部	０４３７−３３０−２０２−１Ａ
ブレーキシュー	トランスミッションセンターブレーキ部	０４００−１０２−００１−０
タイヤ（２２×８．５０−１２）SET	前輪タイヤ	０４５５−３２１−３００−０
ＡＧ２２タイヤ（Ｌ）ＣＯＭＰ	後輪左側タイヤ	０４５５−３４０−２００−０
ＡＧ２２タイヤ（Ｒ）ＣＯＭＰ	後輪右側タイヤ	０４５５−３４０−２１０−０
ダンパゴム	前輪ホイルパイプ受け部	０４５５−２１１−０１２−０

注文部品の紹介

本運搬車には、各種様々な注文部品をご用意しております。部品注文の際は、部品番号をお確かめの上、お買い上げいただきました販売店にご注文ください。

部　品　名　称	使　用　箇　所	部　品　番　号
ルーフ (テンマド) SET	キャビン仕様の風取入れ窓付きルーフです	0455-700-004-
ワクササエ (D) SET	３方枠を水平に保つ為のササエです	0453-200-210-
ニワクパイプSET	横枠に立てるパイプの４本組セットです	0453-200-220-
リヤホイル (ターフ) SET	後輪ターフタイヤです 市販のタイヤチェーン（１８５／７０Ｒ１３，１７５／６５Ｒ１４，１８５／６０Ｒ１４）が装着可能です	0455-300-002-
ホイル (スタッドレス) SET	スタッドレスタイヤ（１４５Ｒ１２）です	0455-350-300-

索　引

あ
アクセサリ電源………25･30
アクセルペダル………25･31･69
アクセルレバー………25･31･69
安全表示ラベル………3･4
ウィンカ………………25
後枠開閉フック………76
エンジンオイル………50･52
エンジン型式…………6･23
エンジンの始動………39･40
エンジンの停止………41･42
エンジン番号…………6･23

か
キースイッチ…………25･26
給油口…………………52･53
グリス…………………50･55
グローランプ…………28
小型特殊自動車………5･6･7
コンビネーションスイッチ‥25･28

さ
最大作業能力…………45
坂道での運転…………43･44
シートレバー…………34
始業点検………………36･37
始動安全スイッチ……66
製造番号………………23
旋回のしかた…………43
センターブレーキ……64
走行クラッチレバー…25･33･74

た
タイヤ空気圧…………75
ダンパゴム……………76
ダンプ操作……………47
ダンプレバー…………25･35･72
駐車・停車……………44
駐車ブレーキレバー…25･32･65
長期格納………………78･79
チョーク………………25･40
ドアの開閉……………38･77
トーイン………………75
ドレンプラグ…………52･53

な
2WD・4WD 切換レバー…25･34･71
日常の格納……………78
燃料……………………50

は
灰皿……………………25
バックブザースイッチ…68
バックミラー…………25
発進・走行のしかた…42
バッテリ………………58･59
バランス………………46
ハンドル………………25
販売型式名……………6･23
ヒューズ………………57
フィルタポット………51
ブースターケーブル…22
フットクラッチペダル…25･31･60･61
フットブレーキペダル…25･32･62
ブレーキスイッチ……67
フロントデフ…………53
ヘッドランプ…………25
変速レバー……………25･33･70
補修用部品……………24

ま
ミッションオイル……50･52･53
モニターパネル………25･27

や
油圧ポンプオイル……50･54
油圧ポンプ駆動ベルト…73
予熱……………………26･28

ら
リミットスイッチ……66･67･68
ライトスイッチ………25･29
ルームランプ…………30

わ
ワイパー………………25
ワイパースイッチ……25･29

困ったり、わからないことがあれば

販売店
住所　〒　　－
TEL　　　－　　　－
担当；

までご連絡ください。

型　　式	
製造番号	

※ご使用になる前にメモしておくと、万一、修理の依頼をされるときに役立ちます。

豊かさを創造し、未来へ挑戦する

株式会社アテックス

本　　　社	愛媛県松山市衣山１丁目２－５	〒791-8524
	TEL（089）924－7161（代）FAX（089）925－0771	
	TEL（089）924－7162（営業直通）	
	ホームページ　http://www.atexnet.co.jp/	
東北営業所	岩手県紫波郡矢巾町広宮沢第11地割北川505-1	〒028-3601
	TEL（019）697－0220（代）FAX（019）697－0221	
関東支店	茨城県猿島郡五霞町元栗橋６６３３	〒306-0313
	TEL（0280）84－4231（代）FAX（0280）84－4233	
中部営業所	岐阜県大垣市本今５丁目１２８	〒503-0931
	TEL（0584）89－8141（代）FAX（0584）89－8155	
中四国支店	愛媛県松山市衣山１丁目２－５	〒791-8524
	TEL（089）924－7162　　　FAX（089）925－0771	
九州営業所	熊本県菊池郡菊陽町大字原水１２６２－１	〒869-1102
	TEL（096）292－3076（代）FAX（096）292－3423	
部品センター	愛媛県松山市馬木町８９９－６	〒799-2655
	TEL（089）979－5910（代）FAX（089）979－5950	

部品コード	0455-941-015-2B